

令和3年12月遠野市議会定例会会議録（第2号）

令和3年12月6日（月曜日）

議事日程 第2号

令和3年12月6日（月曜日）午前10時開議
第1 一般質問

本日の会議に付した事件

- 1 日程第1 一般質問（多田勉、佐々木敦緒、萩野幸弘、菊池巳喜男、新田勝見議員）

出席議員（18名）

- | | | | |
|----|---|--------|---|
| 1 | 番 | 小松正真 | 君 |
| 2 | 番 | 佐々木恵美子 | 君 |
| 3 | 番 | 菊池浩士 | 君 |
| 4 | 番 | 佐々木敦緒 | 君 |
| 5 | 番 | 佐々木僚平 | 君 |
| 6 | 番 | 小林立栄 | 君 |
| 7 | 番 | 菊池美也 | 君 |
| 8 | 番 | 萩野幸弘 | 君 |
| 9 | 番 | 瀧本孝一 | 君 |
| 10 | 番 | 多田勉 | 君 |
| 11 | 番 | 菊池由紀夫 | 君 |
| 12 | 番 | 菊池巳喜男 | 君 |
| 13 | 番 | 照井文雄 | 君 |
| 14 | 番 | 荒川栄悦 | 君 |
| 15 | 番 | 安部重幸 | 君 |
| 16 | 番 | 新田勝見 | 君 |
| 17 | 番 | 佐々木大三郎 | 君 |
| 18 | 番 | 浅沼幸雄 | 君 |

欠席議員

なし

事務局職員出席者

- | | | | |
|-----|---|------|---|
| 事務局 | 長 | 朝倉宏孝 | 君 |
| 主査 | | 多田倫久 | 君 |

説明のため出席した者

- | | | |
|--|-------|---|
| 市長 | 多田一彦 | 君 |
| 副市長 | 鈴木惣喜 | 君 |
| 総務企画部長
兼新型コロナウイルス対策室長 | 鈴木英呂 | 君 |
| 健康福祉部長兼健康福祉の里所長
兼地域包括支援センター所長 | 菊池寿 | 君 |
| 健康福祉部医療連携特命部長
兼総務企画部新型コロナワクチン接種対策室長 | 佐々木一富 | 君 |
| 子育て応援部長
兼総合食育課長 | 磯谷洋子 | 君 |
| 産業部長 | 阿部順郎 | 君 |
| 環境整備部長
兼まちづくり推進課長 | 奥寺国博 | 君 |
| 会計管理者
兼会計課長 | 鈴木純子 | 君 |
| 消防本部消防長 | 三松丈宏 | 君 |
| 市民センター所長 | 新田順子 | 君 |
| 市民センター多文化共生・本の森特命部長 | 石田久男 | 君 |
| 教育長 | 菊池広親 | 君 |
| 教育委員会事務局教育部長
兼学校教育課学校総務担当課長 | 伊藤貴行 | 君 |
| 選挙管理委員会委員長 | 菅沼隆子 | 君 |
| 代表監査委員 | 佐々木資光 | 君 |
| 農業委員会会長 | 千葉勝義 | 君 |

午前10時00分 開議

○議長（浅沼幸雄君） おはようございます。
これより本日の会議を開きます。

日程第1 一般質問

○議長（浅沼幸雄君） 日程第1、一般質問を行います。

順次質問を許します。10番多田勉君。

〔10番多田勉君登壇〕

○10番（多田勉君） おはようございます。多田勉でございます。

質問に入る前に、多田市長におかれましては、先の市長選挙において多くの市民の信任を得て、見事御当選を果されましたことを、心からお慶びとお祝いを申し上げます。

課題山積する本市の発展の原動力として、遠野の明るい未来を切り開いていかれるように、市民とともに切望するものでございます。また、

健康には十分御留意の上、私ども一緒になって、ともに市民の付託に応えるべく御活躍をされまますよう御期待を申し上げます。

さて、今年ももう残りわずかとなりました。1年を締めくくるこの時期、実りの秋を終え、豊かな気持ちで過ごしているこの時期でありますけれども、残念なことに大幅な米価の下落をはじめ、農家をはじめとして市民の生活は疲弊いたしております。どうか市民の皆様におかれましては、御健康でより幸せ多き新たな年をお迎えいただくように心からご祈念を申し上げます。

それでは、市長は就任の所信表明演述で公約に「市民の命と暮らしを守る」ということの実現を目指す五つのビジョンを掲げております。私はこのことを念頭に置きながら一問一答方式により大項目4点について質問をしております。

それでは最初に大項目1点目、鱒沢地区センター整備についてでございます。このことについては以前にも、質問を行ってきた経緯がありますけれども、しかし、再三の質問に対して、整備に向けた明確な答弁をいただけないまま現在に至っております。このことは地域間の格差拡大が懸念されるなど、鱒沢地区市民に対して落胆と不安を与え続けてまいりました。

このような状況を招き続けてきた市の対応、親身になって答弁、説明いただけない姿勢に強い疑問と差別感、不平不満の思いを抱き続けてまいりました。新市長におかれましては、そのような懸念を払拭するような御答弁を期待をしております。

現在の鱒沢地区センター整備に伴う進捗状況と実現に向けた今後の方針がどのようになっているのか、具体的に市長の御答弁を求めるものであります。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） 応援、お祝いのお言葉をありがとうございます。本日が私が市長に就任しまして初めての一般質問の答弁でございま

す。非常に楽しみにしておりました。

市議会と行政は両輪です。どちらが偏っても真つすぐに進むことはできません。私は常に市議会とはあるときは市民のために話し合い、是々非々で議論を進め、あるときは提案し合い、よりよい道を決めて協働しながら遠野の明るい未来に向かって進んでいく所存です。どうぞよろしくお願いいたします。

鱒沢地区センターの整備について申し上げます。結論から申し上げますと、令和4年度に実施設計を行い、令和5年度に建設を目指す計画としております。年明け早々には基本計画を基に地域説明会を行う予定にしております。

経過を申し上げますと、平成28年、その取り組みがスタートしたようです。29年には地域住民が主体となって鱒沢地区センター整備検討委員会ですか、これが立ち上がりました。そして、提案、提言さまざまいただいているようです。令和2年に庁内に鱒沢地区センター整備検討会議を設置して基本構想もまとめられております。

今後の地区センターの更新、いろんな所で必要になってくると思いますが、そのモデルになる地区センターと、そう位置付けて私も期待をしております。

コンパクトで遠野産材を活用した利用に便利な地区センターができることを期待しております。

以上です。

○議長（浅沼幸雄君） 10番多田勉君。

〔10番多田勉君登壇〕

○10番（多田勉君） ただいまの市長の答弁では、令和4年実施設計、令和5年建設、そうすると供用開始が令和6年ということになるだろうというように想像します。

ただ、この地区センターの当初の、先ほど市長の答弁の中にあつた令和2年、検討会議が設置されて、そこでいろいろ議論されてきた経過の中には、31年に本来は完成をしているはずだと。ところがそれから3年、今現在経過しました。そしてさらに今後3年経過するわけです。

ということは、この鱒沢地区センターの計画ができてから、会議が始まってから6年間を経過してしまうと。果たしてそれが遠野市が目指す均衡ある地域の振興、そういったものに結びつくのかどうかということが私は非常に疑問であります。

この地区センター構想の以前には、老朽化している地区集会所として老人憩いの家を新築してほしいという経緯がありました。

そのことを念頭に置いて整備にあたって地元自治会の集会施設としても位置付けていただきたい、そういったことも考慮しながら今後の課題として捉えていただきたいものでありますけれども、先ほど私が市長の答弁に対してお話をしたこの6年間、トータル6年間という時間を費やしてしまうわけですが、市長はどのようにそのことに対してお考えか。

そしてまた、先ほど申し上げた地元集会施設としての機能、そういった考えの捉え方、今後どのように市長は取り組もうとしているのかですね、はっきりとその供用開始の時期も含めて、ここでお示しをしていただきたい。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） 鱒沢地区の市民の方々が、市の対応について強い疑問、不満、差別感、これを抱いていらっしゃる、そのお気持ちは痛いほどわかります。

私もこの件に関して、経緯等調べました。そして担当課のほうから御説明いただきました。

私の率直な感想では、担当課良く準備していたなというところでございます。おそらく担当課も、やり切れない思いで今日まで時間が経過したのだと私は理解しました。

今度、実施設計に入ります。それからできるだけ早く完成する。現在はこのことをお約束させていただきます。そして老人憩いの家ですか、これに関しては解体する方針です。ですから集会等につきましては、この地区センターを御利用いただけるように、設計も間仕切りを外せば大きな部屋になるなどの形を取って、フレ

キシブルに使えるようにしていきたいと思いません。

つきましては、11月…12月ですか…12月ですね、説明会を行います現地の。日程につきましては、詳細またお知らせしますが、その中で皆様の意見をもう一度いただきながら、細かい部分を調整して臨んでいくということになります。

その現地説明会の際に御質問さまざま頂戴し、当方からもしっかりと答えて対応させていただきながら、これまでいただいた不快感、これらの払拭に努めたいと考えております。

以上です。

○議長（浅沼幸雄君） 10番多田勉君。

〔10番多田勉君登壇〕

○10番（多田勉君） できれば令和4年早々に実施設計の発注をして、そしてその内容が具体的に整えば、早急に工事発注につながるように、1年1年の区切り単位じゃなくて、やはり速やかにその計画を全うできるように、私は新市長の今後の行政運営に心から期待をしております。

ぜひ私のみならず、遠野市民のそういう気持ちに親身に応えていただくように、私は望んでおります。

それでは、大項目2点目に移らせていただきます。市道高舘線整備についてであります。

未改良箇所が日常的に与える不都合・不具合は、管理者の責任が問われる事案発生の恐れもあり、重要な課題として市長の見解を伺ってまいります。

過去には未改良部分は狭あい且つ傾斜となっていることから、自転車での通行者が接する沢に転落したという事案が発生しております。大事に至らなかったことは非常に幸いですが、このような危険を含む市道を整備しないまま放置することは大きな問題と捉えざるを得ません。

また、この市道は地域の排水路が横断しており、猿ヶ石川への排水が十分に排水されず、冠水の危険性という課題も抱えております。

このことについては、だいぶ前から「市道

改良と合わせてそのことも解決を図っていく」と、そういう説明がなされてまいりました。

市村合併当初から課題とされてきた高館線の未改良部分の整備に対して、いまだにその見通しが明確化されず長期にわたるこのような市の姿勢に疑義を抱かざるを得ません。

このような実情を市長はどのように受けとめておられるのかお伺いいたします。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） 非常に重要なことであります。年間400件超えるこういう話が遠野市にあるようです。これに対して、しっかりと向き合っていくということは行政の義務だと考えております。

しかるに、予算、財政というものもございます。一つには、計画的にその路線を整備するために必要な費用をどういうふうにして捻出するか、県や国にお願いしなければならないこともあります。あるいは遠野市が持っている自主財源でこれに充てることもあります。

この路線に関して、この規模に関して申し上げます。現在のところ、来年度予算で即座に着工するということはできないと考えております。しかし、こういう市民の声に答えるためにしっかりと財政の確保、これに取り組んでいくということお約束いたします。

これまでの経緯を見ますと、この場所で事故が起きたということもござります。安全確保、そのためにできる対策は講じます。

そして、平成17年市町村合併のときに、生活に身近な道づくり事業として始まったということも分かりました。かなりの時間が過ぎております。残されている区間は200メートルですが、何とか早期に実現できるように努力します。

皆さんのお気持ち、本当に痛いほどわかります。これからそのためにもしっかりと財政基盤を整えて、新年度、そして来年度、その次の年度に向かっていきたいと思っておりますのでよろしくお伺いいたします。

以上です。

○議長（浅沼幸雄君） 10番多田勉君。

〔10番多田勉君登壇〕

○10番（多田勉君） やっぱり市長の答弁にもありましたが、財源の確保。ただ、その財源、いくら必要とされるのか。そういった調査をした上で、やはり国に対しても県に対しても要望していくというのは、私は順序であり大事なことだというふうに思っています。

すぐ工事発注されれば、これは全く喜ばしいことでありますけれども、少なくとも市の今の厳しい財政の中で、どれだけの予算がここに投入しなければならないか、そういったことをしっかりと把握しながら市の財政運営、そういったものにも取り組んでいかなければならない、これは一つの材料だというふうに私は理解してきます。

そういった意味を兼ねてしっかりと調査測量するなり、そして財源の規模を見極めながら国、県、特に多田市長においては、さまざまな国、県とのつながり、関わりもあるというふうに私は認識をしておりますが、そういった役割も市長として果たしていただきたい。積極的に国に要望活動するなり、そういったこともやっていたきたいというふうに私は思っております。

そこで、適正な市道管理には狭あいや路面の凹凸の解消はもちろんでありますが、安全を確保するという市道管理が最も重要であるというふうに私は理解をしております。

適切な判断の下に最悪の事態を招かない為にも、早期の整備実現を目指すべきと考えますが、再度、市長の今後の改良に向けた見解を再度お伺いをいたします。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） ただいま多田議員おっしゃったとおり、しっかりと予算の目論見を取って、計画に臨むということは全く同感であります。

これから遠野市内であるさまざまなことに関しては、そのような姿勢で臨んでいくつもり

です。同時にこの400件にも及ぶ同じような要望があるということに関しても、しっかりと見ていきたいと私は思っています。

この道の構造、道の作り方、公共施設の作り方、全般に言えることですがけれども、現在遠野市には道路に関する構造上の基準や雨水の対策に関する基準がございません。これらは安心安全なまちづくりのためには、どうしても必要なことです。

そのことを遵守すること、民間も官も一緒になってそれを進めていくことが、生活基盤を整えていくということになりますので、その点からもさらに修正をしていきたいと思えます。

今おっしゃっていただいたことを念頭に、これらのことを進めてまいりますのでよろしくお願いいたします。

○議長（浅沼幸雄君） 10番多田勉君。

〔10番多田勉君登壇〕

○10番（多田勉君） 非常に日常生活に深い関わりのある市道でありますから、さまざまな要望・課題、年間400件、これを逐次整理していかないと、これが年々400件が500件、600件と増えていくっていうのは、私は目に見えて分かっている数字だと思います。やはりいろんなライフライン、さまざまな生活に身近な部分については遠野市の重要課題として捉えていただきながら、市民の安全確保、私は優先していただきたい。市民も楽しんで日常生活をしてるわけではございません。厳しい中でも遠野市の財政確保のために、納税の義務を果たしながらそういった日々の生活を過ごしてるわけですから、市民の思い、市民の安全を重要課題として、私は多田市長には心に大きく据えていただきたい、重く据えていただきたいと私は願います。

それでは、大項目3点目に移らせていただきます。市内の体育施設の管理と改善についてでございます。

市内には多くの種目に対応できる施設が整備をされまして、有効的に活用されてきているというふうに認識しております。

その成果として市内小中学校、高校、そし

て多くの市民がそれぞれの分野で素晴らしい成績を収めております。このことは私、市民の1人として嬉しく誇りに思っているところであります。

しかし、この体育施設整備以降、年数経過と時代の変遷に伴って、施設の機能面において現在抱えている課題の認識と対応について、どのようにお考えなのかを伺ってまいりますけれども、施設整備が全て満足できる、完結に至っていないような部分もやはり見受けられるのではないかなというふうには私は受けとめておりますが、市内体育施設の利用実態に即した、補完整備の必要性があると私は常々感じておりますが、例えば野球場においてははいまだ手作業で点数の表示をしております。

私は、この野球場においては、電光掲示板への改善、そしてサッカー場においては日々の大会を紹介する掲示板等の設置、他市の状況から見ると本市としても取り組むべき対策の一つというふうに私は考えますが、市長はこの課題認識としてどのように捉えているのかお伺いをいたします。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） 私もずっと小さいころから、遠野でスキーやサッカー、陸上やってきました。環境というのは本当に大事だと思います。同時に安全も非常に大事なことであります。

現在は、その安全というところに視点を置かざるを得ない状態で職員も努力しています。

ただし、やはり時代の流れ、これらを考えますと野球場の電光掲示板もサッカー場の電光掲示板も、または陸上競技場のタータントラック、これらにしっかりと対応できるような体制にしていきたいと私は強く思っています。

遠野からは今回も神宮大会で活躍した野球の選手が数名出ています。陸上でも箱根駅伝を目指して進学した子ども、もう子どもではないですね。それから、高校駅伝を目指して強い学校に進んだ本当に可能性のある子どもたちが遠野から生まれていきます。

健やかに育つためのスポーツ選手を育成する施設については、できるだけ時代に即した形で対応したいと私は強く思っています。そのために、先ほど多田議員からお話しされた「しっかり予算を確認しろ」という言葉も真摯に受け止めながら、どういう方法でその予算を獲得していくか、これに私は市長として取り組んでいきたいと考えています。

以上です。

○議長（浅沼幸雄君） 10番多田勉君。

〔10番多田勉君登壇〕

○10番（多田勉君） 日常の利用風景を見てみると、公益的な利用の拡大が進んでいるなどいうふうに認識をしておりますけれども、設置以来年数も経過していることから、このことに対応した施設環境の改善に取り組むべきというふうに私は思いながら質問をしているところであります。

宮守にある銀河の森運動公園のテニスコートにおいては、整備当時植栽された緑化木が大きくなって応援に来ている父兄の皆さんをはじめ、参観を遮る状況にあります。

また、サッカー場においては沿道沿いの歩道で参観、応援する方々の姿が多く見られます。

市長は施政方針の中に「人の可能性が広がるまち」と競技環境の充実を図るとしております。グラウンド内の更新整備は実施されてきておりますけれども、そのような環境についても適時の改善に取り組むべき課題と考えますが、市長の見解をお伺いいたします。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） これもまた同感です。しっかりと対応していきたい。

サッカー場に関しましては、コロナでグラウンド内に入れないうえに外にいて観戦していただいているという状態だとは思いますが、それにしてもスタンドなどの施設はありません。ゆくゆくはそういう環境を整えることは重要だと認識しております。

銀河の森の運動公園に関しても同じです。

これ運動公園だけでなく観光施設についても、ある樹木の管理、雑草管理、これらは重要なことだと考えています。

もう少し広い観点からそれらの対応を検討していく必要もあると私は思っています。そのためにもしっかりと財政基盤を整えていかなければなりません。

道路の改修、道路計画の推進、施設の管理もしくは新設、これらに向かうために単にやりたいということだけではできないことは、皆さんも私も共通の認識だと理解しています。ですから、それに応えるためにもしっかりとした財政基盤と予算の獲得、これに努力して行きますのでどうぞよろしくお願いたします。

○議長（浅沼幸雄君） 10番多田勉君。

〔10番多田勉君登壇〕

○10番（多田勉君） 特にも、サッカー場においては、歩道で雨模様のときにも傘をさして応援、参観している方々がたくさんいらっしゃいます。

先日も、自転車の学生が歩行者を転倒させて、昨日ですか、トラックにひかれて亡くなりました。あのような環境は1日も早く解消しなければならぬ大切なことだと、私は日々あそこを通ってみて、特にも土日は多くの人があそこを往来、歩道に沢山の方々がおります。あれが遠野市のサッカーを応援する市民の目から見ても非常にさみしいなど、理想とする対応の仕方ではないと、私は非常に残念でなりません。

遠野市民が一生懸命になってサッカー、遠野高校のサッカー部、全国大会出場を願って一生懸命応援している姿、そういった思いをしっかりと受け止めていただきたい。やはり事故があつてからでは私はだめだというふうに思いません。

そのようなことをしっかりと日常の中から受け止めていただきながら、本当に解決していただきたいことだというふうに思っておりますので、そのことを申し上げまして、次に進ませていただきます。

大項目4点目でございますが、緊急時にお

ける車両運行可能な環境の確保についてであります。

空気が乾燥して全国で火災が多発するなど火災の発生しやすい季節柄ではありますが、緊急を要する急病や災害時等において市道、遠野市の市道ですね、そして私道路、問わず対応が難しいとされる居住地域に対し、課題の解決に向けた迅速な行政の対応が求められ、安全安心の確保が重要と考えます。このようなことは全国でも問題事案となっている例が数多くあります。急病や火災など災害時の出動要請を受けた際に、救急車両や消防車両が現地に到達できないような通行が困難とされる箇所が市内には何箇所か存在するというふうに思います。

対象となるそういった箇所を把握し、明らかに支障となる箇所の解消が急務であるというふうに私は思います。市民の生命、財産を守るという大切な役割を担っている立場として、市長はこのことをどのように受け止められているのかお伺いをいたします。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） 重要なことだと考えています。二つの考え方をしなければいけないと思います。

これまでもう既にあるもの、ある状態、これに対する対応と今後の予防、このことです。これまでのことについては、今までも遠野市のコミュニティの強さ、これにかなり頼っている部分はあります。しかし高齢化も進んでおります。その危険箇所の確認、樹木等も合わせてですね道路の幅員、これらの状況を確認して把握するというのはまず第一歩。それをどういうふうに具体的に解消していくかということが、その次になされるべきことです。

まず把握に努め、そして解消に努める。その場合には民地に関わることもありますので、市民の皆さんの協力、コミュニティの協力をいただかなければならないことも多いと考えています。

もう一つは将来に備えたことです。例えば

消防自動車が入れるように、もしくはその敷地に入った後にしっかり活動できる空地、これらに関することです。

遠野市には現在のところ家を建てるときに道路をこうしようと、幅員がこれでは緊急車両が通れないのでそのとき困るからこうしようとかいう部分の基準、これが建設サイドではありません。これらもしっかりと鑑みて、新たに設計基準、安全基準を検討していくことは急務だと考えております。

しっかりと市民の安全、これを守るために取り組んでいきたいと思っております。この答弁を行うに際して、危機管理の担当、消防の担当、話を聞きました。かなりの部分で現状は把握している、そういうふうに私は認識しました。

彼らがその仕事を進めやすいように私はしっかりと背中を押していきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いたします。

また、スポーツ施設の環境について、私もスポーツが大好きでやってきたので、なかなかこの積極的に取り組むということに関してはちょっと遠慮もありました。

しかし、多田議員から心強いお話しをいただきましたので、何となくタガが取れたような気がしております。

スポーツに限らず、市民の健康安全のために努力していきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いたします。

○議長（浅沼幸雄君） 10番多田勉君。

〔10番多田勉君登壇〕

○10番（多田勉君） いろいろ初めて多田市長に対する質問に対して、答弁を今までいただいまいりました。

一般質問をはじめ、議会での質疑応答に対しては、市民の関心が非常に高まっているというふうに私は実感をしております。答弁した後の見える対応、これが私は重要だと思います。

市民の期待を損なうことのないような、損なうことがあってはならないという意識をともども共に持ちながら、市民に対する説明責任を果たすということが私は何よりも大事だという

ふうにしてあります。

遠野市は市民に寄り添い信頼関係を大切にしているという姿を、私は示し続けていただきたいというふうに強く願っておりますが、このことに対して今までの答弁を振り返りながら市長の思いをもう一度伺いいたします。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） 全く同感と考えています。政策も今は社会課題が山積とは言いながら、さまざまな市町村でも共通した課題、これがあります。その課題にみんなで向かうわけですが、問題はしっかりと第一歩を踏み出すか実行するか、これらがその全てにその答えになると私は思っています。できることをやる、それだけではなくて、できることを話す、有言実行、これをしっかりと守っていきたいと思います。ただ、現在ではできないとかそういうことはあります。全て全部が全否定とか全肯定とかそういうことではなく、質を高める、議論の質を高める、そして方法論を皆さんで相談しながら考えて実行していく、このことを肝に銘じて進んでいきたいと思っております。よろしくお願いたします。

○議長（浅沼幸雄君） 10番多田勉君。

〔10番多田勉君登壇〕

○10番（多田勉君） 遠野市の原動力、エンジンとして強い力をもって遠野市民を引っ張っていただくように心から御期待して、私の今回の一般質問を終わります。

○議長（浅沼幸雄君） 10分間休憩いたします。

午前10時46分 休憩

午前10時56分 開議

○議長（浅沼幸雄君） 休憩前に引き続き会議を再開いたします。

次に進みます。4番佐々木敦緒君。

〔4番佐々木敦緒君登壇〕

○4番（佐々木敦緒君） 佐々木敦緒であります。市民の命と暮らしを守るプランについて、市長に一問一答方式により質問します。

多田一彦新市長には、心から御当選のお祝いを申し上げます。20年ぶりとなる新鮮な風、さわやかな風を感じています。希望に満ちあふれる、新遠野市創生を御期待申し上げます。

さて、市長は、安心して暮らせるまち、市内で経済循環するまち、みんなでつくる福祉のまち、人の可能性がひろがるまち、風土を守り継承するまち、これら5つのプランを掲げ御当選なされました。

市長所信表明演述でその内容をお聞きしましたが、それではこれらの実行実現を図っていくための、プランと申しますか構想について伺いいたします。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） ありがとうございます。佐々木敦緒議員の議会での一般質問はたびたび遠野テレビで拝見しておりました。特に農業に関する見識は深く、私も勉強させていただいておりました。ですから、今議会において議論ができること、そしてどういう方法を取っていけばいいのかという提案をし合えること、これらをわくわくしながら待っておりました。

これからの農業をしっかりと一緒に向上させるように取り組んでいきたいと思っております。よろしくお願いたします。

先ほども申し上げましたが、今の社会課題、各産業の課題も共通しているものがあります。その共通課題をしっかりと見据えて取り組んでいく。何が違うか。人と方法論、そして実行するかしないか、これらが違いとなってくる、そういうふうを考えております。

私は、所信表明でも述べさせていただきましたが、第2次遠野市総合計画後期基本計画の五つの大綱につながるものが、私の政策にしっかりとあると考えています。その基本計画は、もちろん議員の皆様も承認をされてきているものですから、私としては尊重していくというふうを考えています。その中で社会状況または遠野市の状況に応じて必要な変化、必要な修正、これはどの計画でも当然必要なことだと思いま

す。変化する時代に適用していかなければなりません。同時に、新たな視点の将来に向けた展開をそこにプラスするという事は、重要なことだと考えています。まずは対話、これを重視するという私の考えは全く変わりありません。

この定例会終了後、市内全11カ所で皆さんとお話しをする機会を作っていました。同時に、各産業、各テーマございます。テーマ別の座談会、意見の交換会と申しませうか、これも開催していく予定でございますからよろしくお願ひします。

皆さんのアイデアを伺いながら具体化を図り、令和4年新年度予算に反映させていきたいと考えております。

以上です。

○市長（多田一彦君） 4番佐々木敦緒君。

〔4番佐々木敦緒君登壇〕

○4番（佐々木敦緒君） 私のお聞きしたかったことは、どのようにして五つのプラン実現していくのだろうという期待感がありましたが、まだまだ先がありますので予算に組み合わせていくというお話しをいただきました。

次に市長は、農業は遠野の宝と力強く発言された。

さらに「農村地帯が潤えば遠野市全体が活性化する」とも。農林水産省の資料では、14年前、平成19年の米価は60キロ1万5,075円、当時の物価で考えれば農家の潤いが想定できます。

それが今年の米価、概算金は1万円を下回り、農家は大打撃を被っています。

国が公表した資料では、米の60キロ当たり生産費は1万896円となっていますから、小規模米農家は採算割れも考えられます。

このような状況のなか、市長は「農林畜産業の働き手確保」を掲げています。その具体的な内容についてお伺ひします。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） まず米価につきましては、一市町村が大きく変えていくということはかなり難しいことだと考えています。

したがって、岩手県、農協、一緒になって

国に対して働きかけていくということは申し上げさせていただいております。

もう一つは、昔から言われました「地域が良くなければ、町はよくなる」これ当然のことだと思います。

では地域をどうやって良くしていくか、これと農業というのは非常に密接なものだと思います。

「農業がだめだ、だめだ」こういう話しを聞きます。なぜ、どういうふうだめか、これが私は明確にわかりません。

しかるに、しっかりとした農業の経営、見える化、新しく農業をしようという人が生活ができるかどうかという判断をできる基準、これらをしっかりと見えるようにしていかなければ、新しく農業に取り組もうと思う人は少ないかもしれせん。このことは非常に大事なことだと思います。

同時にいろんな起業塾、起こすほうです、これもあります。私は農業に特化した農業起業塾、これを開催する必要があると考えています。

遠野でできる農業、そして生活するためにどういう組み合わせで農業をしていけばいいか、これらをしっかりと発信をして、農業技術、この指導にまでつながるような体制を作らなければ新規就農者というのは難しいだろうと思います。

そのほかにもどういう部分が必要かということは、皆さんの声をいただいきたいと思いますが、現在はですね、コロナ禍でオンラインということがよく言われます。この農業についても、農業の見える化、そして戦略的にPRしていく。この中にオンラインで相談を受けるとかそういうことも必要な時代だと思います。オンラインであれば映像もお伝えできます。

いずれにしても、そういう体制を整えていくということは遠回りなように見えますが、この課題は昨日今日始まった課題ではなくて、10年も20年も前から言われてる課題であります。

しっかりと今できること、これを相談して取り組んでいきたいと思ひますので、よろしく

お願いします。

遠野には緑峰高校、素晴らしい高校があります。私はこの高校があることを遠野のチャンスとして捉えていきたいと思います。

これからの将来を担う遠野の期待の星たちが学んでいるわけですから、市も一緒になってその育成に取り組んでいきたいと思います。どうぞよろしくお願いします。

○議長（浅沼幸雄君） 4番佐々木敦緒君。

〔4番佐々木敦緒君登壇〕

○4番（佐々木敦緒君） 大変安心しました。起業塾を作るというお考え、賛同いたします。

私は、「農林畜産業の働き手確保」は農業所得を高める生産基盤の確立が先になければ難しいとの観点から質問します。

近年の厳しい農業現場で、必死に米や野菜づくり、牛の世話に励む専業農家、新規に就農した若者は野菜やポップ、ワサビ等の栽培、畜産に懸命に頑張っている。この姿を見るとき「家族を養える安定した生活を保ってほしい」そう思う毎日であります。

「農林畜産業は遠野の宝」とはいえ農家が繁盛しなければ宝になり得ない、私はそのように思います。

市長の所信表明、農業で生活設計ができるよう高収益農家の拡大を図るとしています。

それでは、農業所得増大に向けて市長が考えていること、それを具体的にお伺いします。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） 先ほどと少し重なる部分があるかも知れませんが、ご容赦下さい。

まず農業に関しても高齢化が進んでおり、働き手の確保ということは同時に担い手確保、これは重要なことであります。農業をどういうふうにして持続していくか、これも同時に考えていかなければなりません。持続できるようにするために収益も向上させなければなりません。生活基盤だけではなくて生産基盤、これも圃場整備など含めてですね、もう一度見直していく必要があると思います。合理的に効率よく

進める農業をもう一度計画していくという必要はあります。

もう一つ、個々の農業、この持続が難しいとなれば、グループ、組合、企業、それぞれの形での農業のスタイル、これを模索しなければなりません。このことについては、しっかりと勉強会を含めてやっていかなければなりません。

遠野には模範とするべき組合、会社、しっかりあります。まず身近なところから学んでいくということは重要なことだと思います。

スマート農業などもあります。さまざまな多角的にダイバーシティーといわれています。多様性を持たせながら農業を進めるということは必要だと思います。

また、飼料作物や草地の団地化、これらも同時に重要だと思います。

私が個人的に思っていることですが、どこかに行った時に「この米はおいしいべ」って言われるんです。確かにおいしいけども、常に思ったことは「いやいや遠野の米もうめえぞ」と「俺は遠野の米やっぱりうめえな」と、そう思ったことが何回もあります。

だから例えば、頑張ってる若者たちといっしょに、「おいしい米日本選手権」みたいなものを開催する、最初は会からのスタートでもいいです。それに取り組む姿勢、熱意と、だんだんトップを目指して行って上がっていくこの過程をしっかりとお見せする、そして自分たちも確認していく、こういうプライド、これを取り組んでみるのも一つの方法だと私は思います。

もしかすると、そのおいしい米選手権で1位になれば、3位でもいいですけども、米の値段が上がるかもしれない。農産物、特産物とよくいます。これにはしっかりとストーリー、背景、その生産する人の熱意と顔、これが見えなければその価値は上がっていかないと私は考えていますので、その一つずつの、一つひとつの努力が収入の向上につながっていくと考えています。

一つひとつ取り組んでいきたいと思っています。

○議長（浅沼幸雄君） 4番佐々木敦緒君。

〔4番佐々木敦緒君登壇〕

○4番（佐々木敦緒君） おいしい米選手権、大変希望が湧いてくるようなお話し、御答弁をいただきました。

まだ私は別な考えがありますので、これから質問させていただきます。

昭和17年、食料需給と米の価格安定を目的に食糧管理法が制定され、農家の暮らしは安定していたところに、昭和45年に「減反政策」が導入された。これに当時東和町長であった故小原秀夫氏は、真っ向反対した。「減反は農家の判断に任せるべき」「米づくりの放棄は農家のやる気をなくしてしまうから」との主張でした。

平成7年には、ヤミ米やコメ市場の開放を名分として食糧管理法が廃止された。折しもこの年の生産者米価、政府米ですが、統計資料では1俵2万円台。この一連の政策の誤りにより、農家は農業収入での生活が困難となり、若者の農業離れが進み後継者がなくなった。それが今の農業、農村の姿ではないか。小原町長の主張は正しかったと振り返ります。

国は、農林水産物・食品輸出促進法を改正の方針。輸出規制が緩和される見込みです。

そこで提案です。市長は民間企業や海外とのつながりがおありです。このパイプを通じて、遠野でつくられた米は農協と市が連携し、米流通を行う組織を構築する。例えばふるさと商社はどうかと考えます。農家自らが販売する以外の市内の米は、全量高価格で買い取り、市民はもとより家畜も遠野米を食す地産地消の徹底。地産地消の推進で残ると予想される米や青果物は、先ほど市長もおっしゃいましたが「日本のふるさと遠野米」として、仮称でございますが、海外への輸出や企業の社員食堂、飲食店等への売り渡しなど、いわば遠野独自の食糧管理を確立して、生産者米価、青果物価格を安定させ、水田農業そして農家の命と生活を守る。

千葉県の上野いちかわは、中東への農産物輸出に力を注ぎ農家の所得増大を図っている実例もあります

農水省は、今年の農産物輸出1兆円突破と

公表しています。

いかがでしょう、市独自の食糧管理を確立しませんか。市長の御見解をお伺いします。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） 新米市長にいきなり大きな構想を提案していただきました。

生産管理、これがまだしっかりとできていない状態ではありますが、食糧管理、全量買い取りというお話し、いかにも佐々木敦緒議員らしい枠を飛び越えた発想だと思いました。

現在の遠野市、そういうふうにしたのは山々ですが、目指すことは一つの理想としていいなと私は思いました。現在、これは少し難しい、正直申し上げまして。そういうふうを考えています。

ただし農産物の海外輸出、これについては既に取り組みが始まっております。香港、シンガポール、クボタさん、企業さんといっしょにやっているということです、始まるということです。これは非常にいい取組、いい観点だと考えています。

例えば数年前であれば米を海外に輸出する場合、ASEANとか欧米諸国ありました。特に高かったのは香港、中国、台湾ですね。これらは非常にいいマーケットだと認識しております。ただし、燻蒸といいますか持っていく形によっては燻蒸をその国指定の工場を通さなければならないなども問題もありますので、そこで費用がかさんで結果的には利益が取れないというようなところもあるようです。

しかし、このいい取組みが始まっていることを任せきりにするのではなくて、しっかりと分析をして、どういうふうにしていけばさらにそれは進められるか、量を増やせるか、そして収益を大きくできるか。この検討、これにはしっかりと分析と検討ですね、取組まなければいけないと考えています。

そのほかにもアジアは米が多い、そのように考えがちですが実際にはASEAN諸国でも自給率というのはさほど高くないんです。国が

ODAで多額の資金をASEAN数カ国に支援しています。

これらについても現物を扱うことはできないだろうか、そのお米を買い取ってもらって、国内在庫を減らして新たにそれを回転させていくことはできないだろうか、さまざま考えております。

これからの時代に向けてこのような発想と検討、これをみんなで重ねていくことがその第一歩だと私は考えています。よろしく申し上げます。

○議長（浅沼幸雄君） 4番佐々木敦緒君。

〔4番佐々木敦緒君登壇〕

○4番（佐々木敦緒君） いきなりは厳しいということは重々認識しております。

次に畜産について伺います。70億円台に低下した農業総生産額。遠野郷畑作の基幹である葉タバコ、今年で耕作をやめる農家が多い。他の作物への転作がなければ畑が荒れるばかりか市の経済は一層低迷する。

農林業センサスによれば、20年前と比べ遠野の農家数、農家人口ともに大きく減少し基盤が弱っています。

このようななか、本市農業生産額の6割以上を占める畜産業はどうか。乳用牛はほぼ半減して974頭。繁殖牛や肥育牛等肉用牛はわずかに増加している。これは廃業する畜産農家が多いなか、若者や企業が必死になって多頭化に取り組んだ結果です。この流れを絶やさず、さらなる増頭対策や米、野菜、花卉、果樹、ワサビ、林業などを組み合わせた利益率の高い複合経営を確立する農業基本計画。

以前、旧宮守村ではこのような分厚い計画、旧遠野市ではこのような計画がございます。それでもって遠野市では農業生産額100億円を超えた、旧宮守村では30億を超えておったことでありますので、この基本計画をまとめ上げて、その実行が必要と考えますが、市長のお考えを伺います。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） 先日の所信表明で温故知新という言葉を使わせていただきました。しっかりと歴史背景を確認して、これは風土からできているものであって、この先もそこは尊重すべきところでそう考えています。これを研究しながら新たな計画の策定、現在ある計画を尊重しながら、そこに加えた新たな方向性ということは常に考えなければ、求めなければいけないことだと認識しています。

この点について、何と何の組み合わせがいいのかというお話がありました。全くそのとおりで、フレキシブルに農業を捉えていくなれば、農業に携わる形態、グループとか会社とかさまざまな話しもしました。それと組み合わせ、構築、当然あることです。もう遠野市民やってみることだと思います。

そして畜産に関してもお話しされてきましたので、畜産、遠野の農業の中の過半数、生産高を占めていると。花巻JA管内でも35パーセント近くを遠野の畜産が担っていると。これは遠野にとっては主力の産業でなくてなんだろうか、しっかりと行政も力を入れて背中を押さなければならぬと思います。

そのために必要なこと。これから先の経営形態、これから先の畜舎のあり方とか、さまざまなことを研究してより合理的に、先ほども申し上げましたけども、合理的に整備することと同時に、その働く環境も合理的にしていかなければならないと思います。

そういう点で、令和3年、初年度として、第3次遠野市農林水産振興ビジョンというものを掲げております。この中でもリーディングプロジェクトとして畜産は挙げられています。その畜産を伸ばすために具体的にどうするかということ、ここに踏み込まなければ絶対に進歩しないし伸びないと私は思います。その第一歩をまずは産業別、テーマ別の座談会の中で意見交換をさせていただきたい。絶対に生産頭数を増やさなければ農業生産高は上がらないんです。

そのために何をやるかということ、第一歩、何をやるかということ、皆さんで確認して

進めていきたいと思えます。

○議長（浅沼幸雄君） 4番佐々木敦緒君。

〔4番佐々木敦緒君登壇〕

○4番（佐々木敦緒君） 私は、地域の続きの水田約4ヘクタール、7名の農家を説得し、これに岩手県単独補助「いきいき農村基盤整備事業」を導入。農家の負担なしで畦畔を除去し、10年間若い酪農家のデントコーン栽培地として、賃貸借契約を締結した。貸し手は賃貸料が得られる実例です。

農業者の高齢化や収益の減少により、不耕作地が増加することへの対策や米価下落の対処には、乳用牛や繁殖牛、肥育牛、豚や鶏等家畜の増頭を図り、その食料需給基地として水田をデントコーンや牧草、WCSへ、あるいは放牧地に転換を図る施策が必要と思うのですが、市長のお考えを伺います。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） 率直に申し上げて、良い提案だと思います。

生産者、JA、関係団体の方としっかりと話しを進めなければいけないと考えています。

○議長（浅沼幸雄君） 4番佐々木敦緒君。

〔4番佐々木敦緒君登壇〕

○4番（佐々木敦緒君） 今年の米価は大暴落、大規模米農家は500万円以上も収入が減ったとの声も聞かれる。収入保険制度やナラシ対策はあるものの減収は避けられないうえ、今後の米価の回復も見通せないことから、米農家への支援など、その対策は重要かつ喫緊の課題。市独自の食糧管理の取り組みができないのであれば、難しいという市長の先ほどのお話しでしたが、難しい、できないのであれば米価の価格安定を図るためには一層の転作が避けられない。

その推進の一つとして、遠野市農業再生協議会で、水田活用の直接支払交付金、産地交付金に市で予算を補填し、戦略作物デントコーンや牧草転作に助成金をかさ上げする市独自制度の創設を考えた。これによって、牛の増頭に結び付くと考えます。

さらに畜産振興公社と市が減収分を折半し、市営牧場で生産し販売している牧草価格の引き下げ、畜舎や堆肥舎の新設及び増築など生産基盤の整備に対して、国や県の補助に、これもかさ上げを図る制度も構築し、乳用牛、繁殖牛、肥育牛、農用馬、養豚、養鶏、鶏卵、羊の増頭、増羽を推進し、畜産を100億円産業に発展させる畜産部門の10年計画を策定し、実現を図るべきと私は思います。

そのため、先ほど水田を飼料供給基地への転換が必要とお伺いしたところでございます。

畜産を100億円産業にまで発展させる10年計画の樹立。市長のご見解を伺います。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） 細かい手法と中身に関しては別としまして、非常にいいことだと思います。こういう計画をしっかりと立て、もちろん生産者関係者の方々と相談して立てて、実現に向けて努力するということが最も重要なことだと考えています。

畜産で100億、そうするとおそらく敦緒議員は、ほかの耕作で100億と。そうすると200億になるだろうとそういうお考えだと思いますが、本当に遠野市の農業を将来につなげるためには、そのぐらいの計画を立ててみんなで取り組んでいかなければいけないと思います。

私は、農業に関しては一生懸命勉強しようという気持ちはありますが、残念ながら素人です。皆さんの声を聞かせていただき、私も職員もしっかり質問をさせていただき、農業の新たな計画ということではなく、今ある計画を尊重しつつ変えるべきところを変え、伸ばすべきところを伸ばすという姿勢でそれらに取り組んでいきたいと思えます。いい提案をいただいたと考えています。

○議長（浅沼幸雄君） 4番佐々木敦緒君。

〔4番佐々木敦緒君登壇〕

○4番（佐々木敦緒君） 私は農業で生計が成り立たなければ、担い手育成支援を受けた新規就農者の5年後の営農継続や、認定農業者等担

い手の確保も難しく、海外や都会に働き手を求めても、後々の支払いを考えれば頼めなく、むしろ耕作の放棄が進むと考えます。

農業に希望が持てる、農業、農村の形態を作り守っていかねば、永遠の日本のふるさと「田園風景の遠野」は失われ、「田園放棄の荒れ野」になると案じます。

その様にならないよう新市長の熱意と行動力をもって、畜産業100億円の取り組みと併せ、農業全体の所得増大を図っていただきたい。

市長は経営の多角化支援に努めるとしていますが、これまでの議論を踏まえて、農林畜産業の働き手確保に向けた市長の思い、再度お伺いします。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） 私は、農業は遠野の宝だと思っています。その宝というのは、農業があるからただ単に農業を延ばせばということではありません。農業、おいしい食というのは豊かな自然、山、森、そしてきれいな水、そこから生まれてくるものです。この背景、これは遠野は本当に日本でも屈指のものだと思います。

これから将来、食糧事情は悪化していくでしょう。食糧危機も絶対にあります。なぜならば日本の食糧自給率は50パーセントってないですね。これに対して遠野市はチャンスと捉えないでどうするのかと考えています。

現在の農業を持続させていくと。この努力と同時に、先に出ていくということを同時に進めなければいけないと強く考えております。

○議長（浅沼幸雄君） 4番佐々木敦緒君。

〔4番佐々木敦緒君登壇〕

○4番（佐々木敦緒君） さて、人口減少、高齢化などへの対応が急務です。

核家族化の進行で、高齢者は年金だけが頼みの綱、厳しい生活を強いられている上に、通院、生活必需品の調達、入浴、食事の支度等困難な方が多い。

そこで介護福祉士やホームヘルパーの需要が増加し、その人材育成が急務です。

市長は、市内全域を隈なく歩かれ現状を察してのことからと思います。介護専門学校を作ると明言されています。

介護専門学校、2年制、3年制どちらをお考えかお伺いします。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） 民間で第一には取り組むことを考えていきます。

そして、遠野に現在ある介護施設の中で、働き手不足で運営できないという施設もございます。私の父も昨年8月に亡くなりました。そのときは花巻の施設で亡くなりました。遠野で。そういう思いは私だけではなくて、多くの市民の方が考えていると思います。これらにも対応していかなければなりません。

その方法論の一つとして、介護現場で働く人のもちろん待遇改善もあります。それと、その施設に対する遠野市の厚い支援、これもあります。同時に、もう一つの方法として人材を育成していくと。その中でインターン、アルバイトあります。

遠野市にとっては非常に重要な存在になっていくと思いますので、これについては一つのチャンネルとして挑戦していかなければいけないと考えております。

○議長（浅沼幸雄君） 4番佐々木敦緒君。

〔4番佐々木敦緒君登壇〕

○4番（佐々木敦緒君） 専門学校を卒業しても、介護福祉士は国家試験の合格が必要。市長のお考えの学校は、受験に当たっての知識と経験を身に付ける学校でしょうか。内容についてもう少し詳しくお伺いいたします。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） 先ほどお答えを一つ飛ばしておりました。当初2年で考えるべきだと思います。

専門学校作っていくにはハードルがあります。いきなりどの民間でも2年から始めていく、専門学校から始めていく、その専門学校の前に

は会社であつたり違う形での2年間のしっかりとした活動が必要だと。これらがその許可の前提となっておりますので、そのプロセスによります。

また、民間の力をしっかりとそこに誘導したいと私は考えておりますので、その民間を共通理解をしっかりと持ちながら応援ができるかどうかということになると思います。

介護福祉士の資格は受験資格ができるのであって、いきなりそれでもらうわけではありません。しっかりとそこに取り組むように指導するというのがこの狙いであって、その先も遠野市内で働いてもらえる、もしくはインターンとして働く前からサポートしてもらえると、そういうことを考えております。

○議長（浅沼幸雄君） 4番佐々木敦緒君。

〔4番佐々木敦緒君登壇〕

○4番（佐々木敦緒君） 2年制の民間を考えておるといふ御答弁をいただきました。

専門学校の学費は安くはない上に、介護現場は相当厳しいとの声が聞かれます。にもかかわらず見合った収入が得られてなくて、他業種との格差が生じていました。

国はようやく賃金の引き上げなど、処遇改善に動きだしたところでもあります。

このようななか、市長が構想する施設、民間ということではございましたが、ハローワークの職業訓練校等の学校か、それとも一般の学校でしょうか、学生の募集等、内容について伺います。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） 介護に関することでは職業訓練校でも職員の初任者研修を行っている聞いています。

しかし、今回はその資格ということになりますと、その専門学校に入るそのあと介護福祉士になっていく、目指していくということから考えれば、学生の募集には条件が付されてきます。同時に外国人の入学、これも視野に入れるべきと考えております。

○議長（浅沼幸雄君） 4番佐々木敦緒君。

〔4番佐々木敦緒君登壇〕

○4番（佐々木敦緒君） 私がハローワークと言いましたのは、学費が高い専門学校、ハローワークの紹介であれば学費が免除とか定額ということがありましたので、それらのことをお尋ねしたところであります。

誰もがいずれは高齢者となり、介護が必要になる。これに応えるとともに、経済の活性化にもつながる市長のプランは時宜を得たものであります。市民の皆様からも、大きな期待の声が寄せられます。

そこで確認ですが、予定する校舎、どちら方面をお考えかお伺いします。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） これもまたざばりとした質問で、何とお答えしようかと今考えておりますが、場所を特定するというのは差し控えた方がいいというのが率直な気持ちです。

しかし、遠野のバランス、さまざまな施設のあり方、バランス、使える施設等を考慮して進めていく必要はあると思います。

お答えになってるかどうかあれですが、それと先ほどのハローワークの件に関しても、できる補助はいろんなところから情報を得てするという姿勢でいきたいと思っております。

○議長（浅沼幸雄君） 4番佐々木敦緒君。

〔4番佐々木敦緒君登壇〕

○4番（佐々木敦緒君） 大変すばらしい御答弁をいただきました。ニュアンス的にどちら方面かなというのが、勘の中ではありますが感じるような気がしました。

それでは次に、近年激減している観光客の呼び戻しこれが急務です。

コロナ禍の影響前から落ち込みが顕著で、宿泊業、飲食店は規模縮小や閉店を目にします。その静けさとさみしさが、観光客の遠野離れの要因になってはいまいか。さらにコロナ感染症収束後における観光復興への初動の遅れ、座して待っていては何もつかまらない。

青森県では早くから、三内丸山遺跡など世界遺産を前面にJRの駅にポスターを掲げパンフレットを積んだその先見性、手際の良さには感心しました。

秋田県でも宿泊補助の拡大など、新聞に大きく広告を載せた。

本市でも先取りの対応が望まれます。SL銀河は23年春に終了する計画。そうしたなか、市長は「観光戦略の構築」も掲げておられます。その戦略について詳しくお伺いします。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） 観光については、遠野のポテンシャルはものすごく高いと私は考えています。大自然があります、そうすると当然自然を活用した体験型のメニューというのはできていくと思います。

コロナ禍、この状況を経て旅行の形態も個人や小グループに変化しています。家族の場合も多いと思います。そして、人はやすらぎ、心のやすらぎ。そして、遠野人に接する。遠野人の体温って、こんなに寒いけれどもあったかいんだなというふうに接してもらうことがとても大きな戦力だと思います。

ですから私は、現在ランドマーク。ランドマークっていうと建物があるというふうに捉えられるんですけど、ランドマークの観光ではなくて、そのランドマークを活用した人と人との交流、遠野の文化との交流、もっとも遠野には強い武器があります、郷土芸能です。これは日本一、世界一だと私は思っています。

これらをしっかりと伝承してそして伝えていく、発信する。この必要性は大きい、そういうふうに考えます。

また、遠野にはNPOの遠野山・里・暮らしネットワーク、グリーンツーリズムや農家民泊などもしています。

遠野には本当に風情のある宿場町も多くあります。小友、宮守、達曾部、遠野もその最たるものです。

これらをもう一度その賑わいを復活させて

いくと、こういうプロジェクトは各宿場町で必要ではないでしょうか。そこに鎮守様があって、郷土芸能があって、地域の人と接しながら遠野の暖かさを感じてもらえば癖になります。いろんな所にありますから回りきれません。ですから何回も何回も遠野に来なければならないし、何日も滞在しなければなりません。

そういうふうに関光と一体となった観光をしていきたい、メニューをしっかりと作って観光をしていきたい。

もう一つ大事なことは、その観光を進める体制です。観光協会、観光推進協議会等ございます。私はこれを整理するべき。整理というのは変な意味ではありません。しっかりと考え方をまとめて、いい方向に持っていくという意味であります。このことに着手をしなければならぬと思います。

もともと観光協会は遠野の観光を牽引しておりました。今もそうです。観光協会のフォローアップ、これは絶対に必要だと思います。

○議長（浅沼幸雄君） 4番佐々木敦緒君。

〔4番佐々木敦緒君登壇〕

○4番（佐々木敦緒君） イタリアのサレルノ市、アメリカのチャタヌーガ市と姉妹都市を。東京都武蔵野市、三鷹市、熊本県菊池市、宮崎県西米良村、愛知県大府市、兵庫県福崎町の6市町と友好都市交流。また、南部藩ゆかりの10市町と令和南部藩交流を行ってきました。

コロナ禍により交流事業、物産交流も滞った間に福崎町など3市町の首長が変わったと思っています。

本市も、国内外に広いネットワークをお持ちの新市長が誕生しました。観光振興にもつながる都市間交流、今後の展開についてお伺いします。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） これまでの都市間交流、友好関係、これについては私よりも皆様の方がおそらくお詳しいと思います。かなりの数の友好関係、交流関係がございます。これらは人・

物・金といいますが、この交流についても非常に大きな役割を果たしていたと思います。文化もそうです。

特に郷土芸能、何度も申し上げますが、これについては大きなものがあったと思います。これらはしっかりとこのまま大事にして続けていくと。同時にもっともっとグローバルであって、多様性のある交流は必要になってきます。

さまざまな所とさまざまな場面で交流は生まれると思います。ただし、友好関係とか姉妹都市とかそういう形を新たに取っての形とは考えていません。

これまでのことを大事にしながら広げていきたいと思います。

○議長（浅沼幸雄君） 4番佐々木敦緒君。

〔4番佐々木敦緒君登壇〕

○4番（佐々木敦緒君） 次に、今年も冬到来。石油ストーブが赤くなり、こたつにスイッチが入った。

このようななか、原油価格続騰、県民悲鳴、ガソリン価格県内平均163円、灯油も上昇、家計大打撃と大きな見出し、11月5日付け地元紙が報じました。値上がりは依然として続いています。

冬の必需品ストーブ、1リットル100円、昨日は110円でしたが、100円を超えた灯油価格では、必要なだけ買えない家庭もあると考えます。

実際にホームタンクに満タンに補給する方が減り、小分け購入が増えたとミニタンクローリーの配達員からお聞きしました。

市長は、この冬の燃料高騰対策をいかに講じられるのか、お考えをお伺いします。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） 大きな問題であると考えています。政府も備蓄燃料どうするという形、先日のテレビのニュースでも産油国の方針転換、伝わってきています。若干、遠野の燃料店でも値段が下がったような気がします。

しかし、コロナ禍において生活は厳しいも

のであるし、同時に外出を自粛することから灯油の消費も激しいと考えています。

これらに対しては、しっかり対応していくべきと思いますが、政府、そのほかの方針の決定を見て取り組んでいかなければいけないと思います。

第1次として遠野市では「冬のあったか応援事業」、生活困窮者世帯の経済的負担を軽減するという計画をしております。この事業は非課税世帯のうち65歳以上の高齢者世帯、障がい者がいる世帯、ひとり親世帯を対象とし、一律5,000円を支給するものであります。本議会における、令和3年遠野市一般会計補正予算（第5号）に計上しております。

実施時期につきましては、令和4年1月からの支給を目標としています。まずこれを徹底します。その上で社会の状況鑑みながら、新たな手段が必要であればまた皆様にお諮りをしていくということになるかと思っておりますので、よろしくお願ひします。

○議長（浅沼幸雄君） 4番佐々木敦緒君。

〔4番佐々木敦緒君登壇〕

○4番（佐々木敦緒君） 冬のあったか応援事業については、後ほど質問の中で触れさせていただきます。

昨年の冬、山間の独居高齢者を訪ねた時のこと。旧家の広間に大きなブルーヒーター、前は薪ストーブ、「夫が他界し薪がない」「収入は年金だけ」「灯油代を払うと生活できない」そこで言葉が途切れました。今ほど灯油が高くない去年の話であります。

先ほど市長も触れましたが「ガソリン高抑制へ国が補助、年内の適用を目指す」と報道されました。しかし、すでに冬本番。国の原油高騰対策は元売りへの補助や石油備蓄の放出。消費者への恩恵はあまり期待できないと話す専門家もあります。

そこで私は、1リットルあたり53円80銭付加しているガソリン税と温暖化対策税を付加する灯油税の凍結ないし減額、高騰の間です。石油備蓄の放出はこれにあるかと思っておりますが、

または、ガソリン価格が3カ月続けて160円を超えた場合、揮発油税を一時軽減するトリガー条項の発動を国に緊急要望が必要と考えます。市長のお考えをお伺いします。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） トリガー条項につきましては、さまざま活用するその条項を発令するためには条件があるようでございます。東日本大震災の時に設定されたものです。これについては、発動するためにはまた新たな法律、または政府の判断が必要だということでございます。

ですから私どもができること、これは今後の国の対策や動向を見ながら、要望を上げていくと。この条項の廃止や停止これらについても柔軟に現状態であっても対応できるようにお願いしていく、この動きはすべきかと考えております。

○議長（浅沼幸雄君） 4番佐々木敦緒君。

〔4番佐々木敦緒君登壇〕

○4番（佐々木敦緒君） 残念ながらトリガー条項のみの答弁でございました。私は税金を課しているガソリン税は道路財源に向けるためにガソリン税があるんです。これらを一時凍結するってことも必要だというふうに思ったので、質問したところであります。

国へ要望してもかなう可能性は低いかもしれません。しかし、意思表示は地方自治体の首長として重要な役割であります。

原油価格の高騰は、タクシー等運送業、土木建築業、クリーニング業、飲食業、宿泊業など、全ての業種に影響があります。農家は、ハウス内暖房用の燃料、化学肥料や農耕飼料、値上の打撃を受けている。しかし、今さら国に文句を言っても始まりません。

何より市民のため、今、市が取る対策は何か。先ほど市長答弁していましたが、今回本市は「冬のあったか応援事業」を計画も、コロナ感染症の影響により収入が減少した世帯、しかも高齢者世帯、障がい者世帯またはひとり親世帯であって、市民税の非課税世帯に限った支

援。なぜこのような規制を課すのか。市民税のデータは2年度の申告のもの。コロナ禍の影響を加味されたとは言えない。今年の燃料価格は異常。それに加え、マスクや消毒液購入など、全世帯の支出がかさんだ上に、この冬ストーブばかりかお風呂の燃料代の出費が増え、心の中まで冷え切っている方も多いのではないかと。

今こそ市民の命と暮らしを守る対策を講じるべきです。それは「1戸1万円」の灯油購入も可能な、仮称ではございますが「お助け福祉券」を原則全世帯へ緊急に交付してはどうかと考えます。数年前に本市が交付していた「あったか応援事業」1万円と記憶しますが、それと同額です。

これによって、市民皆様の暮らしの応援ができます。その財源は、一般財源、厳しいのであれば、財政調整基金を充当し、後に市有林を伐採して売却し、基金に積み立てるという方法もあります。国や県の制度をかみ砕き、必要に応じて市独自の支援制度を考え実行する。私はそれこそが多田市政と思っています。

この事業予算案は今議会への追加提案、または臨時議会を招集してでも早急に成すべきと私は考えます。市長の御見解をお伺いします。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） まさに市民の声を代弁するという御質問だったと私は思います。私も同様に暮らしに関して心配しております。そして手を打ちたいと考えております。この話は、担当課職員間でもしております。担当課職員も同様の気持ちです。

今、本議会で一気に決められるものではありませんが、しっかりと状況を見据えて、次なる手段を進めていくと、そういう心構えでありますので、どうぞご理解下さい。

○議長（浅沼幸雄君） 4番佐々木敦緒君。

〔4番佐々木敦緒君登壇〕

○4番（佐々木敦緒君） 「言うは易く行うは難し」とのことわざがございます。市長にはスピード感を持ってプランを。併せてその時々の

課題への対策を実行なされますよう、市民の皆様とともに御期待申し上げ、12月定例市議会、私の一般質問これで終わります。

○議長（浅沼幸雄君） 午後1時まで休憩いたします。

午後0時01分 休憩

午後1時00分 開議

○議長（浅沼幸雄君） 休憩前に引き続き会議を再開いたします。

引き続き一般質問を行います。

次に進みます。8番萩野幸弘君。

〔8番萩野幸弘君登壇〕

○8番（萩野幸弘君） 萩野幸弘でございます。ただいまから通告に従い、大項目1点、「市長が目指す市政のあり方について」と題し、一問一答方式により一般質問をさせていただきます。

質問に先立ち、私からも、去る10月17日、日曜日に投開票が行われた任期満了による遠野市長の選挙におきまして、見事御当選されました多田一彦市長に対し、心からお祝い申し上げます。おめでとうございます。詳細な祝意につきましては午前中に同僚議員が述べた内容と同じでございますので割愛をいたしますが、いずれ市民の安全安心な暮らしのため、遠野市のために活発な議論を交わしてまいりたいと思えます。よろしく願いいたします、

では、質問に入ってまいります。

今回の市長選挙、2候補による一騎打ちであったわけですが、新聞やテレビなどの報道では、5期、約20年続いた前市長における市政の継続か、それとも刷新かという内容が焦点とされておりました。

結果、皆さんご承知のとおり、市民の多くが刷新を望んだ結果になりましたけれども、具体的な市政運営に係る公約を比較いたしますと、これはあくまで個人的な感想ではありますが、両候補の公約に明確な争点は見受けられなかったように感じております。

そこで今回の一般質問では、多田市長が選挙戦で訴えておりました公約やこれまでの市政

運営に関し、今後どのような御判断をするのか、継続なのか、見直しなのかなど、具体的に確認をさせていただきたいと存じます。

まずは、本市の財政についてであります。

市長は、本市の財政状況が厳しいと再三にわたり訴えておりますが、これまで当局が議会に説明してきた内容では、詳細な金額は割愛しますが、概ね良好な財政状況を維持しているとの説明に終始をしております。

市長が選挙戦で訴えておりました「本市の財政状況が危機的である」という主張の根拠について、所信表明演述の中で「財政調整基金などの主要基金も減少しつつある」と述べており、もしこれが根拠だとしますと、基金は市の各種事業を推進するなかで、その都度取り崩したり、また増額したりと多少の増減はあると思いますので、例えば一時的に減少した部分を捉えて財政状況が危機的だと判断するのは、いかなるものかと思っております。

恐らくそれ以外の根拠があつての御判断と思えますけれども、現時点において市長のおっしゃる主張は、従来からの当局説明と見解の相違があるのではないかと、私は受け止めております。

それは単なる数値の捉え方の差であるのか、それとも本当に危機的な状況にあるのか、非常に気になるところでございます。

そこで伺いますが、市長が本市の財政状況を「厳しい」と御判断されている具体的な理由、根拠をお示し頂きたいと思えます。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） ありがとうございます。お祝いの言葉をいただきました。萩野議員と私とは遠野市役所同期の入所であります。少なからず互いに切磋琢磨してきたと思います。またこうして切磋琢磨をしながら遠野の将来のために活発な意見を交換し協議できることは感慨深いと感じております。私もしたがって忌憚なく意見を述べさせていただきます。

また、議会とはできるだけ両輪として機能

するようにスムーズに意見交換をし、提案をし、市政を明るい方向に導いてまいりたいと思います。いずれにしても山積する課題をしっかりと向き合って解決していかなければなりません。

ただいま、選挙戦において刷新か継続かというお話しがありました。多くの市民に「刷新を選択したが、公約に明確な争点が見受けられなかった」ということであります。

山積する課題の中で、その課題を取り上げていけば少なからず共通したものはございます。それに関しての大テーマを短い文章で表していくと、それは見えにくいというのは理解ができます。大きな違いは、それを主張、実行していく人間と方法論の違いではないでしょうか。

方法論については、これから事あるごとにお話しをし、意見をいただきながら進めていきたいと思いますが、百聞は一見にしかず、これからの行動を見て御理解いただければと思います。

継続か刷新かにつきましては、市民の皆様から次のような言葉をいただいて応援をしていただきました。「遠野は今の上ではだめだ、一彦なんとか変えてしろ」「でもいいところは継続して、悪いところ直すんだぞ」「とにかく焦らないで行け」こういうふうに応援をしていただきました。

私は温故知新という言葉が大事だというお話しもさせていただきました。

これまでの市政で各種の予算配分、計画は、議会で最終決定をされておりますので、これは当然尊重されるべきものであります。その上で、変化する状況、時代に即した形での修正、これは当然あることです。それと同時に未来に向かって新たな考えをプラスしていくことは、当然なければ困ることです。

計画や市政は見直しながら、検証しながら、進めなければなりません。今の社会状況において、遠野市民が私をリーダーとして遠野市政に求めることは、市民の声を聴き活かす、よりフレキシブルな適応だと考えております。

では、初めの質問に答えさせていただきます

す。萩野議員は会社の経営もされております。あえりあの取締役もされております。また、商工会でも副会長として活躍をされております。お分かりの上で質問かと思いますが、基金については、当然一次的な減少はあります。一次的な減少であるならば、それはまた結果が出ていくものと考えています。

しかし、市民に対する見える化の問題もありますが、基金の判断、広報等で私も見させていただきました。主要3基金の残高は、平成25年、38億9,000万。それから令和2年には、20億5,000万と、減少しております。

また、財政調整基金については、平成28年度、20億円、ここから減少を続け、令和2年には14億9,000万。そして、こうも書かれてありました、「このままの状態が続くと令和7年には約8億になる」と。財政調整基金は、10億円程度を保有していれば最低ラインとしてはいいというふうに判断できますが、ただ、リスクマネジメント、それこそクライシスマネジメント、ダイバーシティ、こういう言葉が見えてくる時代であります。

リスクマネジメントとして考えるならば、令和7年に8億円になりますよ。萩野議員は会社の経営もやられていますので例えば7カ月後、今は大丈夫だけれども、7カ月後には給料が払えませんかというような状態が見えるときに、今はそれは危機と言えるかどうかわかりません。

ただ、経営的な観点で見ればこれは危機に至るということです。このままの状態が続いていけば、そういう危機に至るということについて、われわれはしっかりと前を見据えて議論し、修正すべき点は修正しなければいけない、そう考えるのが当然であります。

人口減少も続いております。もちろん収税も厳しくなっていくでしょう。そのほか一般会計に限らず、ほかの部分、例えば国民健康保険税、水道使用量、これらについても既に職員からは説明を受け、「困難な状況になります」と説明を受けております。当然皆さんは既に承知のことだと思います。

われわれはそうした観点から、しっかりと将来に備えて遠野市を正しい経営で導く責任があると考えています。

今は確認の御質問だったと思いますが、どうぞ市議会の皆様にもこのことを御承知いただき、しっかりと両輪として意見の交換をしながら前に進んでいただければと思います。よろしくお願いたします。

○議長（浅沼幸雄君） 8番萩野幸弘君。

〔8番萩野幸弘君登壇〕

○8番（萩野幸弘君） ただいま、役所入所時代同期だったということで副市長もそのとおりでございます。非常にちょっと不思議な感覚ではございますけれども、その中で商工会副会長とご紹介いただきましたが、正しくは法人会のほうの副会長でございます。

今の御答弁、温故知新ということで、やっぱりいいことは続けていくけれども、やっぱり変えるべきは変えていかなきゃないんだという趣旨だったかと思えますし、遠野市の財政についても、やはり私もやはりこういった地方のやっぱり中山間の都市ということで、非常に財政のほう不安だったわけですけれども、当局側としてはいずれ安全圏内にあるという説明を受けてまいりましたので、今具体的な数値まで示していただきました。今後はそれを基準として、やはり議論を重ねていくべきだなと改めて思った次第であります。

次の質問に入ります。公約の中で「市民生活に即したかたちで決定」とございますけれども、これは、いつ、だれが、どのような根拠に基づいて判断し、決定するのでしょうか。そして「透明化」といってございましたけれども、具体的にどのような形で行おうとしておられるのか、その辺を御確認いたします。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） これも確認の意味も込めての御質問かと受け取っております。

「市民生活に即したかたちで決定をする」と「どのような根拠に基づき判断し、決定する

のか」と、まずここまでのお答えを申し上げます。

そもそも行政、議会は市民生活に即した市政推進のためにあると私は考えています。

ですから市議会は市民の代表が市民の声を代弁し、議論し、市の重要事項を決定する大事な場であると認識しております。その決定の根拠となるものは、市民の声、願いだと考えております。透明化については、あの、質問してよろしいのでしょうか。何か具体例が必要でしょうか。いいですか一般的な話で。

○議長（浅沼幸雄君） 答弁者に申し上げます。今の反問は認められております。即、今返答が来るということではございませんので、もしあれでしたら一旦質問を投げかけて、一旦答弁を。

○市長（多田一彦君） わかりました。それではお願いします。

○議長（浅沼幸雄君） 8番萩野幸弘君。

〔8番萩野幸弘君登壇〕

○8番（萩野幸弘君） ちょっと質問の内容がバクっとし過ぎていた抽象的かなと思いますので、改めて質問し直しますけれども、今後の予算の使い方に関して、市民生活に即した形で決定をして、事業決定のプロセスも含めて透明化すると。市民が意見を出し合えるよう情報公開し、意見を共有していきたいと、そういうふうに述べておられますので、それに関して市民生活に即した形で決定という、その決定の仕方を想像したときに、非常にちょっと自分勝手な解釈だと誤解する恐れがあるなど思って、ここで改めて質問するものであります。

もし具体例があるのであれば、ぜひそれを御紹介していただきたいですし、なければ理想論でも結構です。

以上です。

○議長（浅沼幸雄君） 引き続き答弁願います。多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） わかりました。行政と議会が市民生活に即して、市政を推進するためにあるということは先ほど申し上げました。

透明化については、どうしてそうなったか、わからないことが市民から見てあるということです。これをわかるようにするために、まず一つ決裁を取っているものに関しては変更もあります。この変更が多い場合、大きい場合、どうやって変更する理由をお知らせするか、どうやって変更しなければいけないか、という根拠が決められたか。そしてそれは税金というところ、税金の使い方に跳ね返ってくるわけですから、それが市民生活に即しているというのは、間違いのないことだと思います。

一例を挙げるならば、例えば今ここに建てておりますこの本庁舎は、市民の願いを基にこういうふう立派にできました。

当初私の記憶では17億円前後の予算だったと思います。建築費用だったと思います。これが、おそらく21億円になっていく。正確な数字これもし必要であればあとでお答えしますが、実に3億円も変わっていくわけです。これが変わって工事が終わって、はい変わりましたということで当たり前のように決裁が下りていく。これに関しては、私はそのプロセスが見えませんでした。

しっかりとプロセスを見せて理由を明確にして、なぜ変わっていくのか、だから追加工事であったり追加費用が必要なのだということを市民にお知らせするのが私は義務だと考えておりますので、基本的なところの意味で市民にしっかりとお知らせをするということをしていきたいということだと思います。

○議長（浅沼幸雄君） 8番萩野幸弘君。

〔8番萩野幸弘君登壇〕

○8番（萩野幸弘君） いつ誰がどのような根拠に基づいて判断決定するのかについては、今御答弁はなかったわけですが、恐らく透明化の部分で例を挙げると、さらには次の質問にも出てきますが、市長自らがやっぱり最終判断をするんだらうなという想像の下に次の質問に入りますが、さらには「市民が意見を出し合えるよう情報公開し、意見を共有していきたい」と午前中の答弁でも再三に渡り訴えて強調して

おりましたけれども、意見集約の方法なんですけれども、今の時代ですといわゆるネットの書き込みのようなデジタル形式なのか、あるいは広報なんかにもありますから、おそらく井戸端会議でしたか、そういう形で、前市長でいえば「市長と語ろう会」というのがあったわけなんですけれども、おそらくそういったアナログ形式、どちらかと言えば後者のほうなのかなという想像はしておりますけれども、改めてその方法に関して確認をしたいと思えますし、その際ですね、市民の意見も多岐に渡ってると思うんですよ。ですから、全部聞きすぎると收拾つかなくなってしまうこともあると思うんです。

「右だ」と言う人もあれば「左だ」と言う人もあるし、「上だ」と言う人もあれば「下だ」と言う人もある。

やっぱりある程度聞くっていう前向きな姿勢は理解できるんですけども、そこをやり過ぎるとちょっと結論がなかなか出しにくくなっていくという心配もあるので、改めてその方法について、ちょっと確認をしたいと思えます。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） 御心配をいただきありがとうございます。先ほど決定プロセスのところを、おそらく最終的には市長がということだったんでありますが、例えば議会を通さずに決定できる変更とかですね、いろんなものに関してはその通りいたしますが、これも私独断ではないシステムと既にしております。変更部分については、しっかりと理由を説明、そしてその上で、限られた人数であります相談をして決めるというシステムにもう変えております。

そして市民の意見を聞くということについて、これは今までも方法としては市長と語ろう会であるとかインターネットであるとか、文書でお手紙でということもありました。方法としては何ら変わっておりません。タイトルやタイミングが違うかもしれません。

ただ、私の持論であります。先ほどの人の意見を聞くというのは、まず聞こうとする心

が大切だと思っています。意見が多すぎて收拾が付きにくいと考えていたら、とても声は聞けないと思います。市民の皆様から寄せられる声は、私の耳となり目となる大事なものです。どこかで見落としや、大きな問題が隠れていたら困ってしまいます。もう一つ大きなヒント、チャンスがあったりもします。それに気がつくこと、気づきが私は重要だと考えています。大事なことを見落とさない、そして気づいていく、このことが大事だと思います。

方法は先ほど申し上げました。そして本議会終了後には、市内11カ所において井戸端会議、これをやらさせていただきます。そこでいろんなことを教えていただきたいと思います。

私も忌憚のない意見をお話しさせていただきたいと思いますので、どうぞよろしくお願ひします。

○議長（浅沼幸雄君） 8番萩野幸弘君。

〔8番萩野幸弘君登壇〕

○8番（萩野幸弘君） わかりました。リーダーシップがやっぱり大事だと私は思います。あとは、もちろん市長専決でいい分、あるいはやっぱり議会にしっかり諮らなければならないのは、やっぱりそのとおりにしっかり諮って議論を深めて結論を導き出していきたいと思ひます。

そんなこと言ってる間に時間もなくなってまいりましたので、飛ばしてまいります。

次の課題、いわゆる公共施設の有効活用、維持管理、これも課題です。特に遠野駅周辺の公共施設、現状十分な活用がされていないと認識しております。行政文書館となっている旧法務局跡地など、駅周辺以外の公共施設の活用方法についても、さらに検討の余地がありますし、再検討の結果、余剰施設が増加する可能性もあるなど、総じて市内の公共施設のあり方、もう一度検証してみる必要があるのではないかなと思っております。

そこで質問ですけれども、市内の公共施設の活用方法、施設数などの現状についての市長の御認識と、今後の活用方法や統廃合、民間売

却、これは私必要だと思うんですけども、それらについての基本的なお考えを伺ひます。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） 全く同感であります。私も市長になって、さまざまな現状を見て、こんなにもあるのかと。公共施設と言えば道路もあるしと考えると、これまたちょっと広がりがありすぎますので。

516施設あるそうです。建物のある施設はそのうち388施設。うち延べ面積が50平方メートル未満の施設、壁のない施設、アーケードとか例えば四阿ですね、これは単独の倉庫を除いて293施設あります。それを計画的に管財で管理しているということです。

議員おっしゃるとおり、これはやはり有効に活用するために、積極的に整理を進めるべきだと考えています。その中で整理の仕方については、これを資金化するというのも当然出てきます。駅前の施設のこともありました。私はそれらの施設を有効に活用していきたいと、そういう思いも強くて市長になろうと考えたわけです。

これからさまざまな利用の方法がありますけれども、これも一つ遠野市のいわゆるさまざまな施設を管理するための予算、物件費、これに該当するかと思います。これは4年前は25億円でありました。これが今は35億円となっております。これも一つ財政が困難になっている原因でもあります。

皆さんのいい御提案等いただいて、積極的に活用もしくは運用して行きますので、よろしくお願ひします。

○議長（浅沼幸雄君） 8番萩野幸弘君。

〔8番萩野幸弘君登壇〕

○8番（萩野幸弘君） じゃあ、この件はまた改めて議論をする機会を設けたいと思ひます。

次に、同じ施設でもこれは民間施設ではありますが、遠野駅舎のあり方について質問をいたします。

時間の関係上、今までの経緯はここでは割

愛をいたしますが、市長はおそらく当局の担当者の方から説明は受けておられると思います。

そこで、遠野駅舎建替えに関するこれまでの経緯について、市長として詳細な事実関係、御認識されているかどうかをまず御確認をいたします。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） この件につきましては、非常に情報は少なかったと思います。デリケートな問題でもあったと思います。私はなかなかその情報を入手することができませんでした。

したがって、疑問点は多く、確かな現状は存じ上げませんでした、正直申し上げます。

今度、さまざまな情報をいただきました。その時に思ったことは、議会でもこれは萩野議員がおそらく2年ぐらい前に御質問されてるかと思いますが、あとはどなたかしたと思いますが、あまり取り上げられてはいなかった。やはり市民、私は当時、一市民でありますから、市民からすればもっと質問していただいて情報を得たい、そういう思いもある方も私だけではなかったかと思います。

今回、萩野議員のほかにもやはり駅舎の質問がありますが、やはり皆さんが心配してる部分ではないだろうかと考えています。

平成27年に、老朽化そして耐震不安、耐震性に疑問、不安があるということの理由でこの話が始まったと思います。それから7年ですか、経過しております。耐震性が不安な状態で7年経過してきた。

その後、JRと遠野市が建て替え、合築という一つの中間の結論を出していたと認識しています。デザインとはまた別の話とします。ワーキンググループでも議論もされたようです。

これらのさまざまな情報を基に私が考えたのは、当局も情報を出したくてもなかなかその進捗が明確ではなくて情報を出せないでいたんだなということに、まず一つ意外な点がありました。ですから、それでもいろいろ答えなければいけないという苦勞を担当はしてきたという

ことも理解しました。

ですから私は、この詳細な内容について皆さんに情報を公開し共有すべきと判断をし、駅舎の会、まずは開催をさせていただき、これまでの経緯、それと現在の状況、これをお知らせするように指示をいたしました。12月15日に開催される予定となっています。

その後、行き届かない場合がありますので市民の皆様にも情報を適宜提供してまいります。その上で改めて取り組んでいこうと考えているところでございます。

○議長（浅沼幸雄君） 8番萩野幸弘君。

〔8番萩野幸弘君登壇〕

○8番（萩野幸弘君） この問題、先週12月1日に議会のほうにも常任委員会調査のときに最新の資料はいただきましたが、この内容をここで述べていいものかどうなのかちょっと迷うところがありますが、いずれ私とすればですね、市長も今おっしゃっておいりました、当初から動きからも6年、7年が経過していると。さらにその間には、やっぱりコロナでやっぱり経済がやはり非常に打撃を受けた。おそらく、おそらくというかJRさんいろいろな報道でかなりの赤字が出ているということは、やっぱりこの計画に関しても何らかの見直しがあるんじゃないかなというのは、想像に難くないわけでありませう。

そこで伺いますけれども、駅舎の合築方針は、現在も全く当初のとおり変更する余地がないのか。私としてはですね、この際、この機会に今一度原点に立ち返って白紙も含めて再検討する考えも視野に入れるべきだと思いますがいかがでしょうか。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） さまざまなことが視野に入るべきと、私は考えています。

交渉というのは1人でできるものではありませんから、当然JRさんも遠野市そして市議会の皆様、市民の皆様の声を合わせて考えていくものだと思います。この当事者がJR社と遠

野市であれば、これまで協議してきたことを一方的に白紙にするとか撤回するというのは協議のルールに反してきます。ですから、協議のルールに反することは申し上げませんが、さまざまな角度からもう一度考えていかなければいけないということだけは申し上げられると思います。

○議長（浅沼幸雄君） 8番萩野幸弘君。

〔8番萩野幸弘君登壇〕

○8番（萩野幸弘君） 私もあくまで視野に入れるべきという話で、何も「白紙にしろ」と言ってるわけではございませんので。

そもそも駅舎は民間の建物であると。先ほど質問した公共施設のあり方の再検討も必要だと。人口減少社会における行財政運営の再検討の意味もあります。

いずれ今後やっぱりパブリックコメントがなかなか取れていなかったんじゃないかなという思いがありますので、その辺を十分、今後考慮して行けばよろしいのではないかなと私なりに思っております。

次に、経済分野、特に各種産業、一次、二次、三次とあるわけですが、まずは一次産業についてです。

市長は公約の中で「付加価値を加えた農産物の特産品のインターネット販売の強化、状況に応じた緊急財政出動も視野に入れている」と一次産業についてこのように公約に掲げております。

本市ではこれまでも園芸花きや野菜類など様々な特産品の開発を目指しながらも、十分な成果を収める前に頓挫したり、採算ベースに乗らないとか後継者がいないなどの理由から、生産者も消費者もともに成り立つような特産品がなかなか育ちにくかった経緯があったかと認識しております。

そこで伺いますが、市長は遠野の農産物分野で特産品、何だと思っておりますでしょうか。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） 非常に厳しい質問です。

遠野の農業に携わる方は皆さんプライドと誇りをもって、同じですねプライドと誇りは、臨んでいます。こだわりがあります。そのそれぞれが、私は特産品ではないかと考えているというのが本当のところでございます。

しかし、あえてさまざま聞かれるなかでお答えするならば、ホップは、ちょっと前まで日本一でした、でも生産高は1億円です。

ワサビも凄いですね。ワサビは今チャンスだと思います。

淡水魚もそうです。ヤマメ、イワナ、これをつまみに一杯というのはもう最高です。

そして、緑峰高校が取り組んでいる早池峰菜。それと琴畑かぶ、暮坪かぶ。

忘れてはいけないのは米です。米もおいしいです。これらの商品全てが特産品だと考えています。

○議長（浅沼幸雄君） 8番萩野幸弘君。

〔8番萩野幸弘君登壇〕

○8番（萩野幸弘君） わかりました、非常にちょっといじわるっぽいような質問で大変申し訳ございませんでした。

やはり市長が訴えておられる特産品開発、特に農産物、畜産物も含めて一次産業に関わる原材料を活用して付加価値を付けるというのは、遠野市の豊かな農村地帯のイメージにもマッチした魅力的な商品開発に繋がる重要なテーマだと私も思っております。

ただ、余談になるかもしれませんが、本市の基幹産業と言われる農業、国内においてはどうかというと、生産面のGDP（国内総生産）から見れば、農業の占めるというのは割合は5%くらいしかない。だからだめということではなくて、あくまでこれは統計上の話しですけれども、モノづくり大国と言われている日本ではありますが、製造業の二次産業、これも20%くらい。ならば1番の割合はなんなんだと言ったら、サービス業、第三次産業、これが70%を超えていると、日本の全体の。

何を言いたいかと言えば、私は六次産業化といいますが、農産物、これは一次産業で生ま

れてきた物を付加価値を付けてやるというのは遠野のイメージにもマッチして非常に大事だよということを言いたいのであります。

今述べたのが次の質問の答えになるかと思えますから、でもあえて聞きますが、これまでの、今市長が述べられた特産品を更に今後は伸ばそうとするのか、それとも、先ほど述べられた以外に新たに何か開発を考えておられるのか、その辺はいかがでしょうか。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） これは遠野市だけではないと思いますが、遠野市の本当の意味でずっと何十年考えてきた課題であると思います。これらについてどういう風に答えが出ているかという、なかなか見つからないということです。そして、考えなければいけないのは、今までのものを大事にしながら、これをブラッシュアップする。それと、開発をするかということですが、これは常に両面で考えていかなければいけないと思います。

着眼と応用そして発想につなげる、これが大事かと思えます。それと商品開発に関しては売れる商品、マーケットインの考え方もあります。マーケティングリサーチが大変重要です。これらのところもしていく必要があります。

そして何よりも考えなければいけないのは付加価値です。私は萩野議員の質問の中にも、その遠野の風土とかそういうものを活かしたみたいな話がありましたので、まさにここにあるのではないかと考えています。そのこだわりを持って、プライドを持って作る、同時に遠野の大自然、これが山そして木、そこから出るきれいな水、そしていい土、作る人のこだわり、背景、歴史、これらをしっかりと消費者に見せるように遠野市は努力していけばもっともその市場は広がると確信しています。そのための努力をしなければいけません。

それは遠野市内のあらゆる部分、先ほどお米の話もしましたが、みんなで挑戦していく、これに尽きる、そういうふうに考えております。

○議長（浅沼幸雄君） 8番萩野幸弘君。

〔8番萩野幸弘君登壇〕

○8番（萩野幸弘君） 遠野の特産品いろいろあるんですけども、今大枠の部分での市長のお考えは何이었습니다。

次の質問も同じ御答弁をいただくことになるかもしれませんが、私とすればですね、いろんなすばらしいものはあるんですけども、やっぱり「遠野といえば絶対これだよ」って、遠野のイメージだと観光面ではやっぱりジンギスカンとかいろいろあるんですけども、じゃあジンギスカン、羊が遠野にいっぱいいるかというところでもない部分もあったりして、とにかく「遠野といえば絶対これだよ」という強固なブランドイメージのある特産物が、なんかこう突出する物がないんじゃないかなというふうに私は感じているんですね。

今市長もおっしゃいました、気候風土、この地域に合った物、合わない物を無理に作ろうとしてもそれは無理なわけで、やっぱり「これだったら遠野の気候風土にもマッチしてるし、イメージにもマッチしてるし、すごいブランド化になるよ」というような物を何かその中から、多数ある中からも、さらに力を入れていくことも方法論としてはあるんじゃないかなと思うんですが、その辺はどうお考えでしょうか。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） 結論から言いますと同感です。そういう努力をしなければいけない。それと、固有のブランドイメージについては、商品開発的な部分からも言うところ、育っているのかいないのか、気づいていないのか、もしくは発信できていないのか、これらのことも合わせて考えていく必要があると思います。見せ方というのはやっぱりビジネス戦略の中では非常に重要だと思いますので、その点の強化はこれから必要です。

それと、その受注に関してしっかり対応できているか、もしくはこれから対応できるか。受注に対してしっかり対応できなければチャン

スロスになっていきますね。この点を防ぐ必要もあります。

いずれにしても、これからみんなで一緒に取り組んでいければと思いますので、この点も含めてよろしく願いいたします。

○議長（浅沼幸雄君） 8番萩野幸弘君。

〔8番萩野幸弘君登壇〕

○8番（萩野幸弘君） わかりました。次に、一次産業の最重要課題。午前中の佐々木敦緒議員の質問もありましたから重複するかもしれませんが、やはり担い手不足というのが非常にあります。

例えば、農業分野における過日の新聞報道では、2020年の農業センサスによりますと、農業を主な仕事とする基幹的農業従事者1,942人のうち、遠野市ですね、40歳未満は78人のみということで全体の4パーセント。あとの96パーセントは40歳以上ということになりますけれども、計算上、そのほとんどがおそらく高齢者だろうなというようなのは想像できます。

さらには農業後継者も少なく、昨年度に地元実業校から一次産業分野に就いたのは2人とどまるという新聞記事でした。

この現実を目の当たりにして、本市の基幹産業である農業を守り育てるためには、もはや各農家の自助努力だけでは何ともならない状況にきているんじゃないかなと想像できます。

このように、今のままでは農業の問題にとどまらず、耕作放棄地の増加、これも午前中触れておりましたけれども、「豊かな田園風景が広がる永遠の日本のふるさと」が耕作放棄地だらけになるというのは私も思います。いわゆる三次産業、観光面でも影響が出てくると。したがって、一刻も早い後継者育成が急務であり、そのためには地元の若者だけでは足りず、農畜林業に興味のある若年層を市外から招へいするという対策、午前中に外国人という部分も触れておりましたが、それは後ほど私もまた質問しますが、やっぱり絶対数が遠野市は決まっていますから、やっぱり外からという案もあるんじゃないかなと思うんですが、市長はこの若

い一次産業従事者の確保、育成対策、お考えを伺います。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） 先ほど午前中、敦緒議員の質問にもお答えしました。その通りですね。そのために若者が農業で暮らしていけると思える要素、これをしっかりと揃えてわかるようにしていく、それを発信する。また、そのときに発生する疑問、それらについてもしっかりと対応していけるようにする。私は農業起業塾という話しをしました。これは絶対に必要であるし、そのおいしいお米選手権の話もしました。

しっかりと次のステップに挑戦していくという気持ちも重要です。また、耕作放棄地、その他っていうことを考えますと、集約というのももう一度考えていかなければいけない、圃場整備も含めてですね。これからの時代に合った整備っていうことも必要です。これらのことをしっかりとやっていくと、それがまず第一の手段と考えています。

○議長（浅沼幸雄君） 8番萩野幸弘君。

〔8番萩野幸弘君登壇〕

○8番（萩野幸弘君） 農業起業塾、おいしい米選手権、なるほど面白い案だなとも思います。私とすればですね、例えば農業では農産物の販路や品質、供給面、市場では絶対的な安定性が求められますから、これ先ほど市長もおっしゃっていましたが、作っても売れなければ生産者も安心できない、お金に変わらないわけですし、じゃあ買う側としてみれば「この位欲しいよ」と言っても「いや今回は取れなかったからそのくらい出せません」ってなったんでは、やっぱりこれは信用問題にもなりますから販路開拓もできないことになってきます。その意味では作り手と売り手それぞれが責任を持って明確に分業することが必要なんじゃないかなと思います。

もはや個人農業というのは、個人レベルでの経営ってというのは曲がり角じゃないかなとそういう意味では、可能な限り農地集積を進めて、

しかも、やっぱり法人化というのは必要だろうと思います。

市長は公約に「生産物に付加価値を付ける」何度も言っておりますけれども、私はそれに加え、しっかりとした販路開拓を行って安心して作れば売れるんだというようなやっぱりモチベーションを上げるような仕組みが必要ではないかなと。その辺においては午前中の質問の質問者と私は同感なんです、遠野ふるさと商社というのがやっぱりキーワードになってくるかなと、窓口になりえるかなと思います。作り手と買い手の懸け橋になるバイヤー機能を持たせてはいかがかなと存じます。もしかするとそういった部分、既に行われているのかもしれませんが、コマースがあまりないのか、それとも本当はないのか。

やっぱり作り手は生産物の高品質化、安定化というのに対して「全集中」で取り組むということ。

「いいものを沢山作れば売れるんだ」というような向上心や安心感を持たせる、そしてやりがいを植え付けるということで、生産レベルも上がってくるのではないかなと思います。

また、一方では農業の面、状況に応じた緊急財政出動も考えていると公約に書いてましたけれども、そこは私も否定はしませんが、これ頻繁に行われるようになると市の財政もひっ迫しますし、農家も財政出動されなきゃないということはそれだけひっ迫するということですから、根本的な解決にはならないと。

私が思う理想としては、初期投資は必要なんですけれども、その後はきちっと自立できるという強い一次産業に育てるということが必要ですし、その後にやっぱりウィン・ウィンの関係でいえば市も住民税でしっかりとお返ししていただくと、そういう仕組みが必要ではないかなと思います。

これらの一次産業政策における、今言った私のこの偉そうになって言ったら何ですが、持論に対して、市長はどのようにお考えになるか質問いたします。

○議長（浅沼幸雄君） ちょっと答弁の前に、質問者の質問項目が通告を見ますと、現在質問しておりますのも含めて4項目ございます。特別に市長の答弁が重複しているとか繰り返しているということではございませんけれども、答弁時間の残り時間のほうを考えながら答弁していただきたいと思います。多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） 簡潔に申し上げます。これまでの今議員の御質問のことは、これまでの遠野市の課題でもありました。永遠の課題となっているのだと思います。

これらに対する施策、実行、これがどのようなことであったか、それがどういう効果を生んでいるか、このことも検証しなければならないと思います。

それと、販路に関してもこれ当然、物を作れば販路が必要です。ふるさと商社についてはお話ししませんが、非常に良い分析をしていました、先日お話しをしましたが。

これだけではなくて、さまざまなチャンネルでやっていかなければいけないと考えています。

お答えになってるかどうかわかりませんが、ちょっと多岐に渡りましたので、よろしくお願いします。

○議長（浅沼幸雄君） 8番萩野幸弘君。

〔8番萩野幸弘君登壇〕

○8番（萩野幸弘君） 市長と同じく私の質問時間も残りわずかですので飛ばしてまいります。

次に、二次産業について質問します。市長はですね、広報とか新聞にもありましたけれども、半導体分野の企業誘致を目指すというコメントがございました。私とすれば今二次産業については、市は大きな誘致企業を呼び込むことに成功はしました。そこは否定はしません。

ただ、反面、既存企業が非常に疲弊をしているのも事実でないかなと私は思っております。これからはですね、やはり昔から遠野市を支えてきた既存企業に対しても、やっぱり光をあてていくことが、今まであてていないとは言いませんよ、さらに光をあてていくべきかと思うん

ですけれども、新たに誘致企業を呼び込むとなると、やはりいろいろ人手不足、こちらの分野も人出不足が深刻ですから、ますます大変になってくるなと思うんですが、この半導体分野の企業誘致、具体的な可能性のある話なのか、また既存企業対策、どのようにお考えか伺います。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） 最初に申し上げたとおり説明はその短い文章なので。私はこの半導体に関しては新たな企業の誘致ではなくて、遠野市の既存企業に半導体関連の分野の部分をアドオンするようなことを考えなければいけないという意味で言っています。

このまま行くと市内の既存企業は大変な状況になります。ここに、今までのことプラスもう一つの方法、これを付け加える必要があると思います。

ちなみに、半導体ということよりは半導体関連ですね、関連と考えて下さい。それとSMCさん、YDKさんも半導体関連の仕事はされていますので、申し上げます。

○議長（浅沼幸雄君） 8番萩野幸弘君。

〔8番萩野幸弘君登壇〕

○8番（萩野幸弘君） わかりました。次の質問に移りますが、ちょっと質問項目飛ばしてまいりたいと思います。

市内に2つの県立高校がございます。昨今は両校とも進学希望が増加しているようです。

市内の若者、特に新卒の流出に歯止めをかける対策として、この進学が増える実情を踏まえて、これは提案なんです、大学の学部誘致、これ前の市長の時にも質問したんですが、先ほどもちらっと似たような質問も出ました。

施設については、私も新たに建てる必要はなく、市内にある高校跡地とか既存の公共施設を活用、先ほど問題にした物の有効活用の意味も含めて、まず県の物であれば県に交渉して、市もさらに運営に参画して、いわゆる「自分たちの地域の未来を担う若者を自分たち自らが育てる」という考え方です。

このような案、市長のご見解を伺います。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） いい考え方だと思います。積極的に高校にも協力する姿勢を示していきたいと思います。

○議長（浅沼幸雄君） 8番萩野幸弘君。

〔8番萩野幸弘君登壇〕

○8番（萩野幸弘君） その辺は、具体的には今後また議論してまいりたいと思います。

次の質問ですが、市長は就任以前から、いわゆる外国人実習生関連の業務、これも精通されていることと思います。

日本の人口が減り、国内の各自治体が少ない若年労働者の取り合いになっている現状では、市内の若者流出を食い止め、育てることだけでは十分なそういった労働力確保、できない事も想定されます。

反面、地球規模でいえば人口は80億というか増えている訳ですから、今ある国の制度でいえば実習生制度あるいは特定技能制度、こういったものを活用した外国人労働者を招へいする対策も有効ではないかなと思います。

国の制度ですから、一自治体が自由に運用できるものではないとは思いますが、ただ、国でも現在、人口減少や労働者確保対策として特定技能2号の対象業種分野を拡大するなどのやっぱり対策を検討中であります。

したがって提案ですが、例えば、相手の国の機関と本市が協定を結んで、実習生や特定技能希望者を本市で受け入れ、人手不足対策や定住化による過疎対策の一助とする政策を実証実験的に行う案を、国にプレゼンしてみたいかかでしょうか。民間企業と働き手の間に行政が入ることで信用が増すといいですか、安心、安全、そして安価な費用で地元の各種産業の労働力確保が実現すれば、本市の課題だけでなく、我が国の課題解決にも貢献する一例となるのではないかなと思いますが、御見解を伺います。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） 私は市長就任以前、そのような組合の理事長をしておりました。もちろん、そういうことを視野に入れてやっておりましたので、同感であります。

○議長（浅沼幸雄君） 8番萩野幸弘君。

〔8番萩野幸弘君登壇〕

○8番（萩野幸弘君） ダイバーシティのまち遠野を目指して、ちょっと検討する余地もあるのかなと思っております、

次に、若者定住対策を進めるだけでなく、本市人口2.5人に1人の割合となっております65歳以上の高齢者の方々も含めた福祉の充実化も必要であります。

特にも1人暮らしの高齢者にとって、安心に暮らせるまちづくりは欠かせない政策の一つであります。

この点における具体策の一つとして、私は高齢者向けの市営住宅をできる限り町の中心部に集約する事を前の一般質問でも主張をさせていただきました。

現在の市営住宅、比較的郊外に立地しておりますので、特にも運転免許証を返上したり車を持たない高齢者にとっては買い物など普段生活において大変な不便であります。

今すぐは無理だとしても、今後の市営住宅更新時期を見据えて、出来る限り市街地の中心に建設することで、まちの賑わいの醸成、孤独死の予防、更には空洞化が進む商店街の活性化にもつながるのではないかなと思います。

これは何も遠野駅の周辺だけの話ではなくて、小さな拠点づくりを進める市内各町の中心部においても、出来る限り地区センター周辺にそういったインフラを集約させるほうが、維持管理面でも有益だと思います。

ただ今は、市営住宅を一例に挙げて行政機能をできる限り集約、ある意味コンパクトシティ化を推進することで効率化を図るという考え方をお示ししましたが、この点における市長の御見解を伺います。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） コンパクトシティということから言えば、それは私は作為的ではなくて結果としてそういう方向を選択していく、そういう結果だと理解しています。各地域を尊重していきたい、これは変わりありません。それと住宅、これの集約というより合理化はしていくわけです。交通手段をしっかりと取るということも重要なことです。

それともう一つ、その機能の集約について言えば、例えばですね、少し時間かかりますが、児童館、保所、小学校、それからウィメンズチャイルドクリニック、さまざま課題があります。出産から子育て、そしてその先、福祉、介護まであります。これらがいろんなところで老朽化しています。そうすると各課から個別にいろんな案が来ます。それが別々の所であるわけです。そうじゃなくて、しっかりと横のつながりをもってこれを集約して、例えば福祉であったり、子育てであったり、出産であったり、こういう部分を広域的に集約していった環境を整えるべきだと、そういう意味でも私は集約という言葉を使わせていただきましたが、これから個々の物がばらばらに存続するんじゃなくて、しっかりとチーム形成をして、場所もチーム形成をして進んでいくべき、そういうふうに考えています。

○議長（浅沼幸雄君） 8番萩野幸弘君。

〔8番萩野幸弘君登壇〕

○8番（萩野幸弘君） 縦割りの打破といえますか、ぜひその方向で進めていければ私もよろしいかと思えます。

次に、遠野テレビの全地域光ケーブル化ということで、今市内の各所で工事が今年度中の完成を目指して進んでおります。

例えば、これ単にテレビやインターネットの設備だけじゃなくて、やっぱり福祉のまち遠野のやっぱり再建っていいですか、その意味で例えばですけれども、1人暮らしの高齢者が急に具合が悪くなった際に身に着けたスイッチを握ることによって、自動で消防署に発信元の情報通報されるとか、在宅のままカメラを通じ

て医師の問診が受けられる、これは法律の壁もあるわけですが、せっかくそういった光ケーブルという最新の設備が市内各所に100パーセント充実化するわけですから、これをそういった福祉の部分で活用できないかなと思うんです。そうすれば全国の高齢者が「遠野に行けば1人でも安心して暮らせるっけよ」という評判ができれば、若者だけじゃなくてU・Iターンの高齢者が増えるというのも遠野にとってはいい政策ではないかなと思うんですが、市長はどう考えますか。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） せっかくあるものは有効に使う、これはもう絶対的なことだと思います。職員の担当の方々とも意見交換します。

「将来こういうことを活用して、こういう方向に行かなければなりませんね」そして「行政だけじゃなくて民間ともしっかりタイアップしていかなければいけない」「やれるところを補完しながら寄り添った地域運営をしていかなければならない」こういうふうに話しをしているところであります。

○議長（浅沼幸雄君） 8番萩野幸弘君。

〔8番萩野幸弘君登壇〕

○8番（萩野幸弘君） その通り、せっかくの設備ですから最大限有効に、これしか使えないという固定的な観念ではなくて、やはりこれに使えないかなという可能性をぜひ探っていっていただきたいと思います。

最後になりますけれども、新型コロナウイルス感染症まん延防止対策について伺います。

現在、国民のワクチン接種、2回目接種も一段落しており、当初はもとより県内、全国においても感染の勢いが収まっております。

これを機会にGOTOキャンペーンの再開とか、大手オンライン決済とコラボして「最大20パーセントのポイント還元をするから市内で買物してください」とか、あるいは「15人以上の宴会に補助金出しますよ、どんどん宴会してください」これは今言ったのは本当にうちの遠

野市のとなりの自治体でありますけれども、そういった具体的な経済対策も動いております。

その反面、第6波を警戒して新たな変異株である「オミクロン株」の国内まん延の懸念があるのも事実であります。

したがって、3回目のワクチン、いわゆるブースター接種、これも8カ月後じゃなくて6カ月後に前倒しするという案も政府では検討しております。当然、本市においてもそれらに向けて対策は考えてはいると思いますが、そしてこれは常にテレビや広報等で伝えているとは思いますが、最新の情報というのはどうなっているか、最後にお伺いして終わりたいと思います。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） 人の命と暮らしを守るということは、命も守るし暮らしも守るということです。暮らしの中には経済活動があります。これもただ黙って見ているだけでは守れません。あるときは、これは危険を伴うし相反することもあります。

しかし、私たちはしっかりと両方を見据えて生きていかなければいけないということを申し上げます。

そして、緊急コロナ対策の件につきまして、総務企画部長のほうから詳しいことをお話しさせていただきたいと思います。

○議長（浅沼幸雄君） 総務企画部長。

○総務企画部長（鈴木英呂君） 新型コロナウイルス感染症については、感染力が非常に高いデルタ株と呼ばれる変異株が猛威を振るい、国内においては本年7月から9月にかけて感染拡大の第5波が発生したことは、記憶に新しいところでございます。

県内においても、感染拡大し県独自の緊急事態宣言が発令される事態となりました。

感染対策の決め手と呼ばれる新型コロナウイルスワクチン接種の進展に伴い、国内の新規感染者数は8月26日の1日当たり26,050人をピークに以後減少に転じ、最近では1日あたり100人程度と、感染状況は落ち着きを見せてお

ります。

本市においては、約3カ月間感染症患者はいない状況であります。

海外ではワクチン接種が進んでいるにもかかわらず、感染が再拡大している事例があります。また、新たな変異株が発見されていることから、国は基本的な対策の継続を呼びかけております。

本市としても、新型コロナウイルス感染症対策本部を継続設置し、感染再拡大の局面に備え市民の命と健康が守られるよう緊張感を持って感染防止対策に取り組んでまいります。

特に、新型コロナウイルスワクチンの3回目の追加接種については、先般、国より実施方針が示されたところであり、遠野市医師会や県立遠野病院と協議を行い、接種に向けた準備を進めております。3回目接種の対象者は、2回目接種を終えた日から原則8カ月以上経過した18歳以上の人で、接種回数は1回です。接種時期については、今月から医療従事者等への接種を始め、来年2月下旬から65歳以上の人、5月上旬から64歳以下の人へと順次開始する予定で準備を進めております。

本市の2回目接種を終えた人は、対象者全体の約90%に達し、全国平均の約77%を上回り、県内の中でも高い接種率となっております。

3回目接種の対象者数は、約2万人と見込んでおります。3回目接種が円滑に進むよう国や県の動向を注視しながら、接種体制の確保に努めるとともに、1回目、2回目と同様、接種率向上に向けた適切な情報発信や予約支援等にも取り組んでまいります。

なお、接種に関する最新情報については、広報紙、遠野テレビ、ホームページ等で随時発信してまいります。

また、新型コロナウイルス感染症により市内経済への影響が長期化しており、経済対策についても重要な課題と捉えております。

本年度は19事業、約2億6,500万円の経済対策事業に取り組んでおり、さらに一般会計補正予算（第5号）で3事業、6,400万円を計上し、

本市議会定例会に提案しております。

今後も新型コロナウイルスの影響に注視し、市内事業者が事業を継続し雇用がしっかりと守られるよう、必要な経済対策を切れ目なく展開してまいります。

国はワクチン検査パッケージによる実証実験に取り組んでおり、その結果を踏まえ行動制限の具体的な緩和策について方針を示すこととしております。今後の感染状況にもよりますが、国は来年1月からGOTOトラベルを再開する方針でいるなど、明るい話題も増えてきております。

今後も新型コロナウイルス感染症から市民の命と健康、そして暮らしを守るため、感染防止対策と経済対策に全力で取り組んでまいります。

以上、答弁といたします。

○議長（浅沼幸雄君） 8番萩野幸弘君。

〔8番萩野幸弘君登壇〕

○8番（萩野幸弘君） まだまだ質問したいことはございますが、それは今後また時間を改めて議論してまいりたいと思います。

いずれ、最後のコロナ対策、特に年末に向けての経済対策、近隣ではいろんな経済対策やってるよと言いましたけれども、本市はいつたいどうなんだろうというのもあると思います。

ぜひ私とすれば市長から明確なメッセージ、経済面ですね、出していただければいいのかなと思います。

以上で、私の一般質問を終わります。

○議長（浅沼幸雄君） 10分間休憩いたします。

午後2時13分 休憩

午後2時23分 開議

○議長（浅沼幸雄君） 休憩前に引き続き会議を再開いたします。

次に進みます。12番菊池巳喜男君。

〔12番菊池巳喜男君登壇〕

○12番（菊池巳喜男君） 遠野令和会の菊池巳喜男でございます。通告に従い、一問一答方式により市長に大項目2点について、それぞれ質

問を進めてまいります。

質問に入る前に、新市長におかれましては、このたびの就任にあたりお祝いを申し上げます。

われわれ遠野令和会といたしましては、政治スタンスとして、市長の政策については是々非々の立場で対応をして行く方針であり、賛成の立場では着実な実行、反対の立場では単なる反対の意見を述べるのではなくて、その施策に合った対案を打ち出して行く方針であることを述べ、市民のための市民に寄り添って、市政の向上に向けて進ませていただくことを申し上げます。

また、今まで3名の質問者が登壇いたしましたけれども、重複する面が多々あるかと思っておりますけれども、事前に通告しておりますので、その点をお許し願いたいと思っております。

それでは、質問に入らせてまいります。第1項目でございます。まちづくりに関する五つのビジョンについて、質問を進めさせていただきます。

この前の所信表明演述におかれまして、市長は新しい施策を含めながら演述をなされました。その中で、所信表明演述の中に五つのビジョンが示されております。

一つ目といたしましては「安心して暮らせる町」、二つ目には「市内で経済循環するまち」、三つ目には「みんなでつくる福祉のまち」、四つ目には「人の可能性がひろがるまち」、そして五つ目には「風土を守り継承するまち」と所見を述べられております。このことと既に令和3年度がスタートをしておりますし、令和3年度からスタートいたしました第2次遠野市総合後期計画がございますが、どのようにタイアップしていくのかを、最初にまず質問させていただきます。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） ありがとうございます。令和会として賛成反対という立場をはっきりしながらしっかり提案をしていただくということで、ありがたいことだというふうに感じており

ます。ただ、あまり私はテレビで議会を見る中では、反対されてるシーンはあまり見ていないかなというふうにも思っております。

いずれにしても、ここまで質問いただきました。この中には山積する課題、前政治、前政策、それからの課題、この引き継ぎということがたくさんあったと思います。

ですから、議論するということが本当に大事で、是々非々で考えなければならぬ、そして、賛成責任、反対の責任も同時にあるのだなということ、今已喜男議員のお話から考えさせられたと思います。

まず最初に、第2次遠野市総合計画後期計画とどのようにタイアップしていくか。前にもお話ししましたが、課題はかなり共通してきていると、その共通している課題を取り上げればさまざま共通点がある。ここに対してどのようにアプローチしていくか、どのように解決を図っていくか、このアクションが大事だと私は思っています。

まず、私はこれまでに議員の皆さん、行政当局、お諮りになった総合計画と基本計画は尊重してまいります。その上で、新たな部分、修正する部分をしっかりと捉えてやっていきたいと、そういうふうに考えております。

私が挙げました五つのビジョンも、遠野市の総合計画、五つの大綱につながると読みながら思っていたところでございます。

その第一歩として状況を知る。状況を知るということは決断をしていく上の大事な礎になります。この状況を知るための方法が市民と対話するという事です。

これから11地区で、お話しを聞いたり私がお話しをしたりしてまいります。タイアップという考え方はございません。尊重しながら、適宜変更しながら、新たな策を入れながらやっていくという考え方でございます。

○議長（浅沼幸雄君） 12番菊池已喜男君。

〔12番菊池已喜男君登壇〕

○12番（菊池已喜男君） 今の答弁の中に、尊重しながらやっていくんだというような答弁が

ございました。そして、先ほど私が述べた五つのことに関しましては、この第2次遠野市総合後期計画の五つの大綱にもつながっているんだよというようなお話してございました。課題は共通しているということで、どうアプローチしていくのかというようなこともやっていくということで、市民との対話ということで、井戸端会議でしたか、ちょっと忘れましたが各町でやっていくというようなことで、私の町でもまちづくり協議会からも広報が出ておまして、その中でも触れられておりました。

私のスタンスといたしましてはですね、地方、それぞれの町でございますが「地方の活力なくして中心市街地の反映なし」ということでございます。

午前中、市長は同じような趣旨の答弁をなさっていたかに私はお聞きいたしましたけども、「市内で経済の循環するまち」と所信表明の中にもございます。

市の基幹産業である農林畜産業、活性化を図るため農業経営の見える化の推進によって高収益農業の拡大、新規就農促進、法人化経営など多角化支援に努めると演述でも述べられておりますが、これも重複するかもしれませんが、この辺、農業分野になりますけども、どのような計画を指すのかという具体的なことにもつながるかと思っておりますけども、午前中にはいろいろ塾を開いていくんだというようなお話もございましたけども、その辺、重複すること以外に何かありましたら、お答えをお願いしたいんですが。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） 重複する以外の所ということなので、逆にこの今、頭の中で少し分析をしております。

いずれにしても、これまでの取り組みをしっかりと検証しながら、不足の部分、これからどうするという部分を明確にして、新しい計画であっても何でも常に取り組んでいかなければいけないし、しっかりと提案をし合いながらい

かなければいけない。

「地方の活力なくして中心市街地の反映なし」この言葉は非常に新鮮です。大事にしていきたいと思います。

○議長（浅沼幸雄君） 12番菊池巳喜男君。

〔12番菊池巳喜男君登壇〕

○12番（菊池巳喜男君） ありがとうございます。私もそのとおりで、ここの中心市街地のみ繁栄するということはありませんと、やはり各町が繁栄、そして活性化が求められることによって、初めて遠野全体の繁栄につながるというふうには私は思っているわけでございます。

先ほどもありましたけども、第3次遠野市農林水産振興ビジョン、タフビジョンでございすけども、令和3年度からスタートをしているのもそのとおりでございますけども、今それこそ午前中から答弁なさっているということは、この農林水産振興ビジョン、タフビジョンに沿ったものと、これからもやっていくというふうなことでいいものか、ちょっと確認をしたいと思っております。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） それこそ、検証と確認が必要なのではないでしょうか。

今のところどういうふうな状態であるか、どこまで来ているか、計画はすべて進捗の管理が重要だと思っています。1年であっても進捗はある、2年、3年続けるなかで進捗状況のチェック、管理、そして次に打つべき手を進めていく、これが基本ですので、それを推進するというよりは、常に見直して、検証して、意見交換しながら進むというふうにお考えいただければよろしいかと思います。

○議長（浅沼幸雄君） 12番菊池巳喜男君。

〔12番菊池巳喜男君登壇〕

○12番（菊池巳喜男君） 見直ししながら検証するというところでございます。

遠野市農林水産振興ビジョンの中でも、これから私の後に新田勝見議員も質問するようでございますけども、法人化経営、特に大変な

先ほど来から優秀な3法人、営農組合があるということで答弁もありましたけども、私もこれから約20近くの営農組合があるわけでございますけども、やはり新しいものを取り入れながらですね、法人化に向けてやらなくちゃならないのではないのかなというふうに思っております。

今現在、法人化に向けましてですね、いろいろな模索をしているところかとは思いますが、特に私はですね、これからの任意組合におかれましては、今の営農組合の任意組合が畜産にも力を入れながら経営の中に入れるべきだと思いますけども、その辺ちょっとお答え願いたいと思います。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） 畜産に関することは、先にも申し上げました。遠野の畜産は非常にチャンスがあることです。これを持続していくためにどういう体制が必要か、どういう方向性が必要かということをしっかり捉えていかなければならないと思います。当然、遠野の中で100億円、それ以上を目指す上では畜産が非常に大きな力となると考えています。

○議長（浅沼幸雄君） 12番菊池巳喜男君。

〔12番菊池巳喜男君登壇〕

○12番（菊池巳喜男君） やはり法人化に向けまして新しい施策をどんどん押し進めて、それを行政といたしましても指導を加えながらですね、前に進めていただきたいなというふうに思うところでございます。

農地と環境を守る上で農業従事者が高齢化しているわけでございまして、今後、地域マスタープランというものを計画しなければならないというような今課題もありますけども、このマスタープランの計画を達成するためにはですね、なにかこう具体的な方策はここには演述にはなかったんですけども、その辺こうどのように考えているのかお答え願いたいと思います。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） 現状を知るとのこと

が非常に重要なことになると思います。計画を立てるためにはしっかりと現状を知って、分析して何が必要かということを進めて、それを進捗管理できるように「ステップ・ステップ・ステップ」、分かりやすくお見せして一緒に進めるということだと思います。

強いて言うなれば、畜産のこともありますが、ほかの農業のこともありますね。さまざまな分野で進むべきスピードも違います。目指すべきものも違います。

ですから、しっかりとその点、現状を踏まえて計画を立てなければいけないと思います。

遠野のチャンス、例えばホップもそうです。今28トンですけど、45トン、60トン目指しましょうとこの間話をしました。ホップ生産組合の方々とはいろいろ意見交換もさせていただいておりますが、やっぱりこれホップですから、ホップ・ステップ・ジャンプと進んでいかなければいけないと私は思っています。

そういうふうなリズムで力を入れていきたいと思います。

○議長（浅沼幸雄君） 12番菊池巳喜男君。

〔12番菊池巳喜男君登壇〕

○12番（菊池巳喜男君） ぜひですね、マスタープランの計画達成に向けましてホップ・ステップ・ジャンプじゃないですが、一生懸命皆で汗を流していくように、農家がよりよい未来を築いていただくことを指導していただきたいなというふうに思うところです。

それでは、次の質問に入らせていただきますが、五つのビジョンの中にですね「市内で経済循環するまち」「みんなで作る福祉のまち」「人の可能性がひろがるまち」ということで、1番の「安心して暮らせるまち」もなんですが、この四つをですね、これから行えるんじゃないのかなという私なりの提案型で、市長に質問を進めさせていただきます。

現在、各町そして行政区単位でもあるんですけども、人口減少と高齢化が進んで農業生産のみならず、生活、これは買い物、子育て、これから必要となる除雪問題など集落の維持に必

要な機能が大変弱ってるということはそのとおりでございます。

このような状況のなかで、農家のみならず非農家が一体となって農業生産、生産支援などに取り組み、地域コミュニティの機能を維持・強化することが私は求められているというふうに思っております。

このことをいつも私は一般質問でも以前にもさせていただきました。いろいろと問題解決の具体的な手段として、農林水産省で来年度令和4年度の概算要求の中で、複数の集落協定と自治会、社会福祉協議会など多様な地域の関係者が連携して協議会を設立し、農林地等の保全、地域資源の活用、農村の生活支援にかかる将来ビジョンを策定しながら各事業を実施する地域運営組織といたしまして、農村RMOという組織をですね結成を推進しようとしておるわけでございますけれども、この取り組みは今まで先ほど申し上げたとおり、人口減少と高齢化が進み、農業生産のみならず生活環境も維持しながら、遠野市といたしましても、地域の運営組織を結成して考えてみるべきではないのかなというふうに思っております。

農水省ではですね、中山間地農業ルネッサンス事業として、4年度事業概要要求として約478億円を要求しているということになっておりますけれども、この辺の情報はちょっと入ってるか、まず最初にお伺いしたいと思います。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） 情報は、最近入っております。

○議長（浅沼幸雄君） 12番菊池巳喜男君。

〔12番菊池巳喜男君登壇〕

○12番（菊池巳喜男君） 情報が入ってるということでございますので、どのくらいの情報なのか分かりませんが、農水省とですねパイプを密にして、4年度事業でございますので、多分12月末あたりには閣議決定されてスタートするのではないのかなというふうに思いますが、この農村RMO形成推進事業に関しまし

て、積極的に取り入れる気持ちはないのか。ちょっと私は所信表明演述に謳われている五つのビジョンそのものだというふうに思っておりますけれども、その辺はいかがお考えでしょうか。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） そもそも、遠野市には地区センター構想というすばらしい構想がありました。これを推進してきた結果がこういうすばらしい地域づくりにつながっているわけです。

その中で構成するものは、まさに農業、地域、それと子育てもあった。福祉もありました、助け合いがありました。そして文化。郷土芸能をはじめとする文化もありました。

これらのしっかりした検証を進めながら、地区センター構想、今は小さな拠点、そういうふうに謳われております。このことを尊重しつつ進化させていかなければならないと思っております。

先ほどから申しておりますが、状況をしっかりと反映させながら、必要な部分進化させながら、協力体制をしっかりと取っていくと。地区センター構想、これが小さな拠点づくりとなってスタートしたばかりです。さまざまな課題も出てくるはずですが。

これらに対して丁寧に対応する責任が私たちにはあるはずですが。このことをしっかりと踏まえた上で、このRMO、しかるべき時に必要であれば考えることではないかと思っております。

まずは、事業ありきではなく自分たちが思う地域づくり、小さな拠点づくり、これをしっかりと取り組む。その上でスクラップ・アンド・ビルドの中で単に事業を増やすのではなくて、取り組む方向を見据えた上で、新事業には取り組んでいくというふうに考えております。

○議長（浅沼幸雄君） 12番菊池巳喜男君。

〔12番菊池巳喜男君登壇〕

○12番（菊池巳喜男君） そのようにぜひ進めていただきたいわけですが、市中心部と遠野市の隅々まで交通システムの確立によって、高齢者支援対策と通院、買い物支援などが、こ

の事業を取り入れることによって解決して、地域内での高齢者見守り対策や、さらには六次化、農産物開発支援などがそれぞれの地域性を活かした各組織によってなされるシステムと、私は農村RMO事業は何っておるわけでございます。

この組織は、同時に地域内にそういう組織を作るわけですので雇用の創出にもつながることとございまして、地域活性化の基になるのではないのかなというふうに考えます。地域が盛り上がることは、先ほど来から言っているとおり、中心市街地も盛り上がるということに通ずるところがあるわけでございまして、先ほど答弁の中にありましたけども、小さな拠点づくりとも相通ずることとありまして、これは先ほど来、答弁がありましたけども、担当部署の垣根を越えてですね、例えば産業部、市民センター、健康福祉部のような横断的な部署をですね、一緒にすることによってですね、きちんとしたことがこの農村をさらに活性化できるのではないのかなというふうに思っております。

これは県の対応も必要でありますし、これを支援するような事業もあるようでございますけども、私は必ず令和4年度におかれましては、これに取り組むことが必要だというふうに思いますが、再度その辺をお伺いいたします。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） いい提案だというふうに捉えております。また、12月閣議決定ですか、ということになると、さらに詳細がこれから出てくると思います。また皆さんとしっかりと議論をして、いいものはいい、できることはできる、できないことはない、そういうふうな姿勢で臨んでいきたいと思っております。いずれにしても、地域の皆さん、今小さな拠点づくりに取り組んでいらっしゃる皆さん、この人たちが中心にならなければならないので、意見をいただいて尊重して進めていきたいと思っております。

○議長（浅沼幸雄君） 12番菊池巳喜男君。

〔12番菊池巳喜男君登壇〕

○12番（菊池巳喜男君） わがまち小友町にお

かれましては、まちづくり協議会がございまして、この通りこの冬には「みのたけバスターズ募集」ということで高齢者に優しい除雪活動もやるということで、各世帯にチラシが回っております。それらもいろいろ冬の期間中も含めながらですね、今前向きな答弁がありましたので、ぜひこの事業に農水省に赴きながらですね、赴かなくてもいいんですけども、いずれがんばってこの事業を取り入れていただきたいというふうに思います。全国のモデルとしてもですね、取り組んでいただければというふうに思っているところでございます。

今まで、五つのビジョンを述べさせていただきましたが、この演述の中にですね野生鳥獣の駆除に関しまして何一つ取り上げられておりませんが、そのようなことはわかっていることだということとございまいしょうが、シカ、クマ、イノシシなど野生鳥獣の駆除についてはどのように考えているのか、ちょっとその辺をお聞かせ願いたいと思っております。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） これ大きな問題ですね。しかし、書いてないからといって大きな問題として捉えてないということではありませんので、その点は御理解をいただきたいと思っております。

この件については、全国でさまざまな取り組みがされております。遠野でもされています。このあいだヒアリングいたしました。駆除、防除、人材育成、この3つを柱に担当課では取り組んでおります。

カラスの駆除、カラスの駆除箱を設置して駆除する、ニホンジカ、イノシシの捕獲、ハンター育成、防護策、転作さまざま努力している、このことは凄くわかります。おそらく皆さんもお分かりだと思います。その中で有効作があるかという、どこでもなかなかないというのが現実です。私もさまざまな所を見に行きました。その中では…あれは何と言いましたかね…「モンキーダッグ」という取り組みもありました。犬ですね、家庭で飼ってるワンちゃんの特徴を

見ながら、来たら追い払うっていうことを進めて効果を上げてる所もありました。いろんなことをしてみなければいけないと思います。

これは、皆さんが長年取り組んできているなかで、なかなか効果の上げられる手段がなかったということですから、しっかりとさらに情報収集や研究と一緒に進めて見つけていく以外に方法はないと、そういうふうに思います。

この件、しっかりと全国から情報収集をして、一緒に進めていただければと思います。

○議長（浅沼幸雄君） 12番菊池巳喜男君。

〔12番菊池巳喜男君登壇〕

○12番（菊池巳喜男君） 情報収集しながら本当にいろいろ電気柵等々農地に関わる被害も結構1億くらいになってるわけでございますので、喫緊の課題ではないのかなというふうに思っているところでございます。併せてですね、今答弁の中にありましたけども、カラスの被害がこの前Facebookにも載ってございましたけども、市長も街中を歩いてカラスの糞の被害が非常に景観を害しているというふうに見えるところがあるのではないのかなというふうに思いますけども、先ほどカラスのモンキーのような形の対策も、カラスにどうだか分かりませんがあったんですけども、私のちょっと情報によるとですね、今のAIを使ったドローンですね、ドローンに下のほうに長いチェーンとか、ああいう物を付けながらカラスの電線に止まってる所にですね、飛ばしながら追い払うというような対策もやってる所もあると。これは農産物の鳥の被害対策にもやってる所もあるんですけども、そのような形ですね、ぜひ令和4年度は横断的にですね、カラス対策室なるものをですね、部署にプロジェクトチームを持って中心市街地糞対策をですね、やってみてはいかがなものかなというふうに思うんですが、やってくれますでしょうか。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） お答えします。考えなければいけない、取り組まなければいけない

てことはもうこれ事実です。そして、担当課も努力をされていて年間600から1,000羽の捕獲をしています。処分もしているわけですが、かなりの状況を把握していました。ある所から追い払うと次あそこに行きますよと。そこに行ったら次あそこに行っていきます。そこに逃げられると、もうどうしようもないんですという状況があります。発砲するわけにもいきませんし、なかなか大変。

ドローンの話も聞いております。さまざまな取り組みをしなければいけないってことはこれ事実です本当に。電線をなくすることもできませんし、だからやらなければいけないんですけども、これは担当課を作るよりどちらかと言うとプロジェクトを進めて、全国とも情報を共有しながらいい手法を探し、それをチャレンジするということが重要だと思います。これ本当に先ほど議員おっしゃったように、生産性下げてしまいます。これ本当に大変なことなのは分かります。一つずつ、空から、陸から、地中から来る小動物もあります、対策をしていかなければいけないと思います。

改めてしっかりした形で議論をしたいと思っておりますので、よろしく御指導お願いします。

○議長（浅沼幸雄君） 12番菊池巳喜男君。

〔12番菊池巳喜男君登壇〕

○12番（菊池巳喜男君） 国のほうではですね、鳥獣被害防止対策等ジビエ利用・活用の推進ということで、農水省の予算の枠の中にはございます。

その中で先ほどカラスのことはちょっと謳ってなかったんですけども、ぜひですね、くどいようですが、市街のカラスは部署を横断的にプロジェクトチームを作って、くどいって言われますけどもAIを使ってそういう何か研究をして、町の中に班を3班とか4班とか編成して、最終的には山に追い払いのような対策を取っていただければいいのではないのかなというふうに思うところでございますので、ぜひ令和4年度はその実行を市長に期待しております。

それでは、五つのビジョンのことのほかに

演述の中で4項目めに「人の可能性がひろがるまち」ということで、安心安全な周産期医療への充実に向けて産婦人科や小児科の医師の招聘に取り組むということがあります。それだけで終わってるんですけども、これに関しましてはですね、遠野市内、沿岸、釜石病院も含めて産婦人科医がなくなってるわけでございまして、遠野市に沿岸部を含めながらですね公設の産婦人科医、小児科クリニックを開設いたして近隣の市と町に連携しながらですね、子育ての医療拠点を遠野市にぜひ構築していただきたいんですが、そういう気持ちはないものなのか伺います。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） そういう気持ちはとっても強くあります。これ絶対必要です。遠野の課題の第一歩です。ですから、子ども、女性をいたわる、このことは重点項目として考えていかなければなりません。

それと沿岸各地でも産婦人科医がいなくなっているという話があります。県立病院の数は岩手県かなり多いですね。これが将来ずっとその県立病院の数で成り立つんだろうかという疑問も私の中にはあります。そうすると県立病院もある程度集約、集中化されるんじゃないかと。いくらなんでも内陸から沿岸にかけて一つもないということにはならないはずですよ。

そうすると遠野市の位置を考えてみるならば、防災拠点がある東日本大震災の時に後方支援活動をした、七十里ですか、そういう言葉があつてどこにも1時間くらいで行けますよというこの利点、それと防災拠点としてあれば、何かの際に遠野には安全にそういう施設を置けるんじゃないかというアピールをわれわれはしなければいけないと思います、将来に向けて。やはりなぜ防災拠点があるか、安全でみんな来やすいからです。

病院も危機管理の一つだとすれば、そういう立地にあるべきです。ですから、そういう発信もしなければいけないし、当然緊急の課題と

してウィメンズチャイルドクリニック、これは必要になりますので、私も就任早々さまざまな方面にお話しを伺ったり、良好な関係にある医療関係の方と意見交換をしたりしております。

遠野には可能性がある、そして市民も議会も行政もそれについて積極的にやれるという考え方を持っているんで、できるだけ早期に進めていきたいというふうに思っています。

また、産婦人科、小児科、それ以外にも医療に関するチャンネルをどこかに依存するだけではなくて、しっかりと作っていくという努力も同時に必要だと考えております。しっかりと取り組んでいきます。

○議長（浅沼幸雄君） 12番菊池巳喜男君。

〔12番菊池巳喜男君登壇〕

○12番（菊池巳喜男君） ただいま、大変力強い答弁をいただきました。前の市長の時からすでに体制として言われているのは「子育てするなら遠野」というふうに謳っているわけでございます。今答弁の中に、遠野はこの前の東日本大震災のときにおかれても、防災の拠点になってるというような答弁がございました。安心につながる、来やすいということもあるようでございます。

チャンネルを依存するのではなくて早期に進めていきたいなということをお話しされたけども、私は国にもですね、きちんとこのことを伝えながらですね、岩手県のモデルとして遠野市に公設のこういう産婦人科を作るんだということを厚労省にちゃんと提案をして、市長が行くんであれば、われわれ議員だって一緒に行くことも可能なんです、その辺はきちんと早期に、答弁があつたから早期に進めるということなんでしょうけども、その辺をきちんと進めていただきたいことを念願しているところでございます。

それでは、大項目2点目に移らせていただきます。「遠野市の財政計画と見直しについて」ということで、3項目ほど質問させていただきます。

第四次遠野市健全財政5カ年計画がスター

トをしておりますけれども、これを着実に推進する旨の発言がございます。この計画については何も見直す所はなく、このまま着実にこの計画に乗っかってやっていくものなのか、最初にお伺いいたします。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） まず、先ほど質問があったから答えたということではなく、しっかり重要事項として捉えているということなので、その点は誤解のないようお願いをいたします。

それから、計画についても先ほどから申し上げておりますが、しっかりと見直すべき所は見直す、決めたからそれを全部その通りにやるとか、そういうことでは時代の変化、社会状況の変化についていけません。しっかりと見直しをしながら、意見交換をしながら、適宜検証して正しい方向に議論を進めながら計画自体を進めていくということでございます。

○議長（浅沼幸雄君） 12番菊池巳喜男君。

〔12番菊池巳喜男君登壇〕

○12番（菊池巳喜男君） 見直す所はないのかということに対しては、見直す所は見直すということで、皆さんと意見交換をしながらやっていくということやっていきたいということでございます。

既存の事業でございますけれども、やはり検証見直しというところも言われているように感じますけれども、その中で既存の事業の縮小とか廃止も意味をしているのかなというふうにも考えるんですが、その縮小とか廃止ということも視野に入れてるのか、ちょっとお伺いします。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） 当然、その状況においてあることだと思います。

○議長（浅沼幸雄君） 12番菊池巳喜男君。

〔12番菊池巳喜男君登壇〕

○12番（菊池巳喜男君） いい意味で廃止、それこそ縮小もあるかと思えますし、この事業はどれも廃止に向けて考えるべきところだなとい

うところもあるかと思えます。その辺は皆さんと意見交換しながら進めるということは、そのとおりだと思いますけれども、それもきちんと意見交換しながら進めていただきたいというふうに思うところでございます。

最後になりますけれども、現在遠野市で所有する財産が先ほど来から質問がございましたけれども、数多くあるわけでございますけれども、維持管理費がどの程度で、これをどのように考えてどのように改善していくのかということ、ちょっと最後にお聞きしたいなというふうに思います。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） 総論で申し上げます、まず考え方、基本的な管理に対する考え方、これ第三セクターもあれば、指定管理もあればさまざまなことがあります。それぞれごとによりしっかりとした尺度を確認する、現状を確認することが重要です。

指定管理であれば、その基準はどうなっているのかと。ちょっとこれは資金難だ、だからここにはプラスしようとか、そういう考え方ではないということです。また、さまざまなその改善の仕方があるので、その都度その改善するためには関係者の意見を聞き、その現状を見なければならぬ。その上でしかるべき方法で改善をしていくという考え方です。

○議長（浅沼幸雄君） 12番菊池巳喜男君。

〔12番菊池巳喜男君登壇〕

○12番（菊池巳喜男君） 私の質問は、この辺で閉じますけれども、最後にちょっと、この前たまたま市長室の前で遠野西中学校の野球、スポ少の野球クラブでしょうか、市長に対して全国大会出場の報告会がございました。本当に私も感激をさせていただきました。

このようにスポーツが中学生、高校生につながるように、各学校で競いあえるような環境に少しはなってるのかなというふうに思っているところでございますけれども、最後に遠野西中学校のスポ少の野球クラブが全国大会、来年の

3月なそうでございますけども、「頑張れ」というエールを送って、私の一般質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。

○議長（浅沼幸雄君） 10分間休憩いたします。

午後3時14分 休憩

午後3時24分 開議

○議長（浅沼幸雄君） 休憩前に引き続き会議を再開いたします。

次に進みます。16番新田勝見君。

〔16番新田勝見君登壇〕

○16番（新田勝見君） 5番バッターの新田でございます。

一般質問前に、まずもって、10月の市長選挙におかれまして当選なさいました多田市長にお祝いを申し上げます。

最近における首長選挙の傾向として、先ほど萩野議員からもありましたけれども、継続か刷新かという取り上げ方をされています。当然のように候補者は対立したら対立した立場で演説をし、相手候補より有利に導くために市民に向けて自分の考えを訴えていると思われま

す。そこで、多田市長に確認したいのは、刷新していくという、あるいは世代交代という部分もありましたけれども、刷新していくという考えでよろしいかどうかお伺いいたします。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） 刷新する部分、尊重する部分、さまざまあると思います。ただ、基本的に取り組む姿勢、それと何かあった場合の対応、そこについては刷新していくという考えであります。

また、外郭団体さまざまあります。公社もあります。その機能の確認、赤字が続いている所もあります。

これを放置するつもりは全くありません。そういう点では、刷新すべきところは多いというふうを考えていきます。ただし、基本計画、遠野市の最高決議機関である市議会を経由してできてきたこの計画、これについては、しっか

り尊重して変更しながら進めていきたいと考えています。

○議長（浅沼幸雄君） 16番新田勝見君。

〔16番新田勝見君登壇〕

○16番（新田勝見君） よく分かりました。もう一つですけども、確認したいことは「新しい市長は即戦力になる」と支持者の方々が一生懸命訴えておりましたけれども、その即戦力、そのことについて市長の言葉にはありませんでしたけれども、自分として遠野市政の即戦力になるんだという気持ちかどうかをお伺いいたします。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） 自分で「即戦力です」と、なかなかこの恥ずかしさもあって言いにくいことではあります。しかし、この場ですからはっきりと申し上げます、即戦力だと思います。

○議長（浅沼幸雄君） 16番新田勝見君。

〔16番新田勝見君登壇〕

○16番（新田勝見君） 分かりました。力強い言葉がありましたけれども、選挙期間等々の話しの中にですね、やはり市民の中では今までの市政の流れを変えようというふうなうねりのようなものを、私はそういう有権者等々に有権者といいますか市民の方々から感じましたけれども、そういうことに対する期待は非常に大きいというふうに私は思っております。

そこで、通告に従い質問いたします。私は六つの課題について、一問一答方式で行います。

一つ目は、遠野市の基幹産業である農林業振興についてであります。

初めに、コロナ禍にあって米の消費が大きく減り、大きな影響を受けている米価。今、農家を直撃しています。昨年比30キロで1,400円減の概算金であり、単純に市内において3億円近い売り上げの減というふうになっております。将来に向けての見通しが立たないと思っております。

担い手不足、高齢化のなかで、危機的状況になっていると私は思っております。それは私

だけではないと思います。

水田における多面的な役割も多く、必死になって守り続けている人々を見ていますが、もう限界に近いのかなというふうに私は判断しております。

「農業の危機は遠野市の危機」と言っても過言ではありません。

多田市長だったら、これを解決できるのではないかと思った人もいると思います。市民の考えを、声を大切にする方ですので、もう既に耳に入っておってその対策も練っているのではないかと私はと思いますが、どうでしょうか。これからの米対策について、市長の考えをお伺いいたします。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） できる手段をしっかりと整理して、できる限り多くの方法を取っていくということは重要だと思います。

その中で、米価については、これは残念ながら米価の調整を遠野市ですることは難しい。しかし、農協や県と一緒にあって、国に対して要望、お願いをしていく、その動きはできると思います。

また、新たな販路、外国輸出、それと飼料米、さまざまあります。これらについても、しっかりと生産性と価格をにらみながら進めていく。

それと、例えば収入保険、今回適用になっただけなんですけれども、青色申告もやっていなければいけないということもあります。青色申告というのがハードル高いと思われてる方もいます。「そういうことはないですよ」ということをお知らせするというのも一つ重要です。できる手段を全てやっていくという考えからすれば、そのこともしなければなりません。

また、国に対して、例えば途上国への支援を現物、米でできないか、これについても働きかけが必要だと思います。小さな市町村から声を上げていく、この重要性を全国にアピールしていきたい、そう思います。

また、そうですね、今ですね次期作支援、これをまず決めました。おそらく皆さんからすればこれではまだまだだという声があると思います。

このところ政府、そのほか花巻農協も含めて支援策が出てきました。その中で私たちもしっかりとその支援策を見据えて、その不足の部分にもう一度注意をしていく、このことが必要です。また、米を高く売る、このために先ほど例えばイベントも必要だというふうにしました。これ自分で米の値段を上げていく努力が絶対に必要だと思います。そのために、どういうふうにすれば米の値段を自分たちで上げていけるか。そして、販路をさらに拡大できるか。このことをしっかりと皆さんと話しをしながら取り組んでいきたいと思います。

私は営業マンとしてやっていくつもりです。

○議長（浅沼幸雄君） 16番新田勝見君。

〔16番新田勝見君登壇〕

○16番（新田勝見君） 岩手日報でしたか、「5ヘクタール未満の米農家は赤字ですよ」と新聞に掲載されました。それは、96パーセントの農家がそれに当てはまるということになりますと、大変な痛手となっております。

そして、先ほど市長がおっしゃいました米の収入保険、これも行政のほうから補助金をいただいて、掛金ですけどね、それをやっていますけれども、その青色申告というものについて、やはり3年、5年とそういう経過を踏まえて今回のですね、まだ今回は収入保険いただくというか下がっておりませんが、これがやはり5年間の価格を見て比較していくわけですし、一旦下がっていくとですね、それを収入保険にしながらも毎年下がっていくという経過がありますので、その辺についてもきちんと対策をしていただければなというふうに思うわけでございます。

次に、市の農業の生産額の大きい畜産、特に肉用牛の中の繁殖牛、肥育あるいは一貫経営であると思いますが、やはり遠野市の場合、この広大な牧野を最大限に活かした和牛繁殖経

営の確率が必要となります。

私は農業高校終了後、多頭飼育ってということで荒川牧場、高清水牧場あるいは貞任牧場を利用しながら多頭化を図ってまいりましたけれども、その次にやっぱり量より質だという形になってきますと、1頭当たりの単価、牛の単価が上がってくれば山に上げるのは非常にリスクが高いということで、しかし牛は減らしたくない、多頭化していくということになれば、やはり牧野あるいはキャトルセンター、そういったものの利用というものは非常に重要になってきますので、私はこの広大な牧野というものを利用するのが一番いいのかなというように思っていますけども、市長はどのようにお考えでしょうか。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） 同感です。ある財産は使うべきだと思っています。広く岩手県内を見渡しても、そういう牧野での飼育をですね上手にやってる所もあります。

また面積、遠野については面積やその牧野の放牧のシステム、管理のシステム、これらもさらにスキルアップしていく必要があると思いますので、その点を含めて見直していくということは必要だと考えています。

○議長（浅沼幸雄君） 16番新田勝見君。

〔16番新田勝見君登壇〕

○16番（新田勝見君） やはりですね、広大な牧野というものを採草も含めてですね必要だと思いますので、ぜひ十分に考えていただきたいというふうに思います。

次の質問ですけれども、本州唯一の乗用馬市場が10月26日に開催され、遠野産の乗用馬が競りにかけられました。馬といえば、昔から南部曲がり家で人と馬が一緒に生活していた、いわば家族同然だったというふうに思います。私の家にも農耕馬を買ってありました。耕運機、トラクター、昭和40年前後から発達してきた機械に押されまして、農耕馬の役割というものはなくなってきました。しかしながら、馬の大好き

な人たちは乗用馬あるいは肉用馬として継続していっているというふうに思います。

今回の乗用馬市場においては、上場頭数17頭、売却頭数が13頭、平均価格が約100万となっています。コロナ禍とはいえ寂しい限りです。

今後の馬産振興について、市長の考えをお伺いいたします。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） 私が子どもの頃、馬検場っていうのが今のバイパスの辺りにありました。そこで馬の市場が開催されていました。私の祖父が運送関係の事業に携わっておりましたので、駅前から貨車に馬を積み込む風景を毎年見ていました。その数たるやものすごい数だったと子どもながらに覚えています。貨車に乗るのを嫌がって暴れる馬もいました。その時の威勢のいいおじさんたちの声が今も思い出されません。

そのことから考えると、非常に寂しい数であります。でもこれが現実なのでこれからどうやっていくか。この数から考えると、あとはチャンスしかないって考えるべきだと思います。下がるところまで下がっていると。

あとあるのはチャンス、前向きに考えていくなれば改善すべき点があります。まずは、経営体制です。

過日、私は畜産公社の理事長に就任しました。経営改善をしたいと思います。そのために現在事業別収支と、それと職員のモチベーション、改善点、これらを掘り起こしてもらうように指示をしました。経営分析をしなければなりません。毎年畜産公社には5千万円を超える市のお金が行っています。これを続けるという、単に続けるという考えは持っていません。積極的に改善します。

同時に、市場、反映させるにはどうするか。販路ですね、これも同じように販路を作る、つまり市場のニーズがどうであるかということをしつかり情報収集する必要があります。どういう所が、どういう馬が必要と考えているか。そ

して、どういうふうになれば買ってもらえるか。このマーケティングをする必要があります。

ですから、関係課、担当者、その辺のリサーチをするように私は指示をしております。

その上で売れる馬、これを増やしていく。今回は、史上最高値260万円という馬もいました、200万円という馬もいました。これも一つのチャンスです。そのことを念頭に置きながら、しっかりと後継者に対して収支がわかるようにしていかなければならないと考えています。

畜産公社、馬事振興に係るその公社の中で必要なことの一つに、職員のモチベーションというものがあります。モチベーションを上げるためにはどうすればいいか、これも重要なことです。待遇もちろんあります。さまざまな角度からマルチタスクを推奨しながら、改善を進めていきたいと思っております。

そして、この目標に対してどういうふうなアプローチが必要かということは、もちろん補助のこともあります。これを進めていかなければなりません。積極的に今もされていますけれども、展開していくつもりです。同時に農用馬、今新田議員からお話がありましたように、農用馬に対してもその重点は置くべきじゃないかと、さらにですね。その多様性っていうことを考えるならばですね、市場の多様性にどういうふうにして答えていくかってことが重要になってくると考えています。

○議長（浅沼幸雄君） 本日の会議時間は、議事の都合により、あらかじめこれを延長いたします。16番新田勝見君。

〔16番新田勝見君登壇〕

○16番（新田勝見君） 馬の場合はですね、乗用馬の場合は馬事振興組合とかJRAとかあるんですけども、いろいろ1頭買えばその馬が5年、10年持つわけですね。

そういった面で、そのときの相場、流れ等々もあるようでございます。そしてまた購買者の動きもありますから、その辺は十分に考えてですね、やっていただければというふうに思っております。

次に、林業についてお伺いいたします。

「川上から川下まで」といいますが、なかなか山の評価が低いのではないかと考えています。

木材が昭和39年、自由化によって木材価格が低下し山の評価の下落によって、山林の管理をまでがおろそかになってきているというふうに私は感じております。

「山を持っていれば財産を持っている」と昔はそう思っておりましたけれども、今は相続しようとしても誰も「山はいりません、田んぼはいりません」というような話を聞くことがあります。

そんななか、最近ウッドショックということを目にしましたが、外材が入ってこない、高いということですが、今こそ遠野産材によって遠野住宅、遠野の家って言うんですか、遠野住宅の販売に活路が生まれるのではないかと思います。そう思うのは私だけでしょうか。木材の価値が重要視され見直してくれれば、林業を営む方も利益を上げることとともに、これから山の管理など力を入れるのではないかと考えております。

80パーセントを超える山林を有する遠野市が、これをどう活かしていくのか、新しい市長の考えをお伺いいたします。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） 全く同感であります。遠野の家、これ重要なプロジェクトになると思います。

例えば公営住宅、さまざま取り壊しをしたり「さあどうする」という状況のなかで、しっかりとまちづくりを捉えるならば、遠野の家を進めるために、その市有財産を活用するということもできます。また、市有林というものかなりあります。これらの財産をしっかりと活用していくということは、非常に重要なことです。

遠野の家、ブランドを進める、そのために林業関係者、関係機関の方々と意見交換をしながら、どうすれば、さらにブランドを作るだけ

ではなくて経済活動に結びつけて、それが回転して経済循環起こせるかっていうことをお話をしていきたいと思います。これについて私もプランを持ってますので、突っ込んで話をしていきたいと思います。

同時に、林業は自然のサイクルっていうものを大事にしなければいけないと。私、農業に関して「遠野の大自然、これを大事にしろ」と「いい山からいい水が出て、いい食物ができるんだ」伝承園のカップおじさんをしてる運萬さんから、本当に情熱的に教わりました。その通りだと私は感動しました。まさに伝承館で聞いた話だなというふうに感動したもんです。このことは、切って、使って、植えるっていうサイクルをしっかりとやらなければいけないよということと、もう一つは、切ることによって災害の危険もあるわけですから、防災対策もしっかり取っていかねばならない、環境に関してもそうです。その辺の基準をしっかりと見据えながら、林業の振興に、力を入れていきたいと考えています。

○議長（浅沼幸雄君） 16番新田勝見君。

〔16番新田勝見君登壇〕

○16番（新田勝見君） 次のテーマに移りますが、少子化対策について。これは国内最大の課題かもしれません。

日本は戦後のベビーブーム、第一次、第二次と日本経済の成長とともに人口も増え、そういった増え続けてきたわけですが、2004年から減少傾向にあり、高齢化率もまた高くなってきています。県も市も同じような現状にあります。これを止めることができるのでしょうか。

合計特殊出生率、岩手県で1.35と低下しつつあります。今の時代、子ども1人育てるのに1,000万かかるというふうに言われています。しかし、賃金など所得の低い地域においては、簡単なことではありません。

また一方、学校に目を向けますと、子どもが少ないことによって、附馬牛町の場合なんか中学校もなくなりました。小学校も複式学級となり、遠小、北小へと子どもも流れていって

ます。そして親も中心部へと移動しております。

いわゆる市長も感じたと思いますけれども、街場とざい、そういう地域格差と言えいいんでしょうか、そういったものが私は強く最近感じております。そして、ざいには年若い人だけが残っているのが実態であると思います。人口を増やす以上に減っているんだと、Iターン、Uターンの方も多くいますけれども、それ以上に遠野から出て行く人が多いんです。

市長は、多分Uターン者に入ると思いますが、生まれ育った遠野市の魅力、十分にわかっている人だと私は思っています。遠野市の良さをPRしながら移住者も増やし、市内においては子育て支援をどのように考えているのか、まず最初にやらなきゃならないのは何だと思っていますか。質問いたします。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） 最初の第一歩という質問になって、まさにピンポイントになりました。

これは非常に厳しい質問であります。子育てそれと少子化、これは特効薬がないと思います。なぜならば、暮らしにくいから遠野から出ていく。その暮らしにくい、暮らしやすいの尺度は、仕事であったり教育であったり福祉であったり。それと、子育てするための制度、これがあると思います。このそれぞれを長期的に見て改善していく、人が暮らしやすくするためにあるのが政策です。この今まさに私たちは政策を話しているわけですが、この政策をしっかりと進める、アクションを起こすということがまず第一です。行動するということです。

それと、「子育てするなら遠野」というのは、キャッチフレーズでは実現しないものです。子育てするために何が必要かという要素をしっかりと認識して、そこに対して遠野市は政策としてどのような支援策を展開していくか、そのアクションが必要です。

これらをしっかりと整理する、つまりターゲットを決めるっていうことです。その中で何を最初にやっていくかっていうことを決めてい

かなければなりません。

私は一旦、萩野議員のときも話しをしました。一緒に役所に入って、東京に行きました。そして帰ってきた。Uターン、まさにそうあります。

遠野まつりには必ず帰ってきていました。録音したりビデオを撮って行って、車の中でそのお囃子を聞いたりしながらモチベーションを上げて勇気を出して生活してきた覚えがあります。

おそらく遠野出身の若者たち、私たちのようなおじさんたちも遠野の郷土芸能、あのお囃子が常に頭の中にあると思います。遠野の魅力というのは、私にとってはそういうことです。

あと、なんでいいかわからないこの自然。もうとにかく来た瞬間いい。この良さが遠野の武器だと思います。

よく外の友達が来ます。「なんでいいか分からないけど、とにかくいい、とにかくいい」そういう人たちが少しずつ集まるようにしていく、その中で社会を変えていく、これも必要なことです。

ただ、考えなければいけないことの中に仕事があります。仕事は選択肢を増やすということだけでは解決せず、もちろん働き手の確保もあります。市内の給与水準の格差、これも現実的な問題になってきます。これを一瞬にして解決しようとするとう既存の企業の圧迫にもつながります。先ほど申し上げましたように既存の企業の将来を考えるならば、もう一つの産業分野、これも展開を視野に入れる必要がある、さまざまな要素があります。

新田議員の端的にという質問にお答えできていないのは百も承知でお話ししておりますが、それら各分野に必要な第一歩をやっていかなければいけない、そういうふうに思っています。

そのためには、しっかりと会社の経営者、若者たち、高校生、議論していかなければならない。必要な制度をしっかりと見据えてその制度を設定していかなければならないと考えています。

答えがまとまっていないと思います。申し訳ありません。

○議長（浅沼幸雄君） 16番新田勝見君。

〔16番新田勝見君登壇〕

○16番（新田勝見君） 非常に難しい問題ではございますけれども、遠野広報でしたか、産まれた方が死んだ方の10分の1しかありませんでしたけれども、自然減ということになると思いますが、やはりそうであれば市長の言うこの遠野の魅力を十分に活かして、Iターン者、先ほど馬の話しましたけど、馬とかあるいは郷土芸能とかですね、もちろん自然もそうですし、あるいは民宿をしたりね、いろんな方がUターンしてきてますので、その辺をきちんと精査して、その魅力を都市のほうにアピールしていく、PRしていくということが大事かなと思います。

コロナ禍によって結構都会よりも田舎に住みたいという人多いと思いますので、こういう機会にぜひやっていただければというふうに思っております。

次の質問に移りますけれども、次にですね、小さな拠点づくりの見直しについて質問いたします。もちろん、見直すという言葉は私が勝手に言っている言葉であります。市長の所信表明の中では、「地区センターの多機能拠点化」と表現、「行政区再編による地域組織の強化と謳っております。

この拠点づくりは市民の声によってできたものではなく行政主導によるもの。私は以前からこのことについては全く逆だと思っております。

遠野市の職員が地区センターからみんな引き上げました。それは各地域の小さな拠点づくりがきちんと行政区の合併、あるいは自治会の結成、そういったものがきちんとできてから「これで安心だよ」というときに初めて地区センターから引き上げても、「自分たちでこれだったらやれるんじゃないか」ということをここ2年、3年、私は主張してまいりました。しかしながら、一番先に引き上げてしまいました。

先ほど市民センター構想、カントリーパー

ク構想もありましたけれども、以前、昭和50年ですけれども、各地区センター立派にできまして、そして所長、主事そして保健師も在住しております、地域の健康といいますか健康づくり、そういう小さな部落まで入って血圧を測ったりですね、そういうことまでやっていたのが非常に私は懐かしく思います。今、そういうこともありません。そのことについて、まずお伺いたします。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） お気持ちは理解しております。遠野市は小さな拠点づくり、これを進め出しました。

新田議員の考える部分をどんどん逆に、前向きに発信をして地区の中で話をしていきながら、例えば附馬牛であれば附馬牛の地区センター、地域づくり構想はこういうふうにしていく、個性があつていいはずですから、さまざまな各地の前向きな提案をしながら話し合いをして進んでいくというのは、私は正解かと考えています。その結果、昔はよかったということも参考にしながら前に進んでいく。

医療、福祉これらも地区センターを中心に地域として寄り添っていくべきものになると思います。交通に関してもそうです。これらを確かに古きよき時代、コミュニケーションの本当にあつたかい時代、これわかります。ですけれども、今の時点から新たにそういうさらにあつたかい地域づくり、地域の拠点づくりに進んでいく努力をし、かつ必要な施策をそこに展開するという考え方でおります。

○議長（浅沼幸雄君） 16番新田勝見君。

〔16番新田勝見君登壇〕

○16番（新田勝見君） 今までですね、市ではよくですね官民一体という言葉を使います。今の小さな拠点の中で、官というのは誰を指して官という。官民一体って、私は民だけじゃないのかと、簡単に言えばですけども、そういうことについては市長どのようにお考えでしょうか。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） これまでの官民一体というところに関して、あまり私の認識ではあまりありません。申し訳ありません。できているのか、できてないのかしっかり検証も必要ですが、一体というイメージ、これ私のイメージですが、これ伴走、しっかり寄り添って進めるっていうふうに考えています。

ですから、不足部分は常に寄り添って進めていく。一体で進めるっていうのは、もうこれ今の時代当然のことですが、本田市長もよくお話しをされていまして。その結果どういうふうな一体感というものができているかというのには、私はあまり認識がありませんのでお答えしにくいところです。

一緒になって話し合っただけ前向きに進んでいきましょう。

○議長（浅沼幸雄君） 16番新田勝見君。

〔16番新田勝見君登壇〕

○16番（新田勝見君） 次の質問に入りますが、先ほどちょっと出ましたけれども、まず心配されるのは交通弱者の対応であります。

私は数年にわたって当局とも議論をしてまいりました。いまだ結論に至っておりません。免許返納者があり、バス路線の減少、住民の高齢化など課題山積。市長の考えている生活交通、生活交通ですね、各地区センターを中心とした交通弱者についてですけども、生活交通についてどのようにお考えでしょうか、お伺いたします。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） 遠野は御存じのように雪も深い場合もあります。歩くのも滑って大変な時もあります。

お年寄りがごみ袋を持ちながら歩いてると、「あら、転ばねばいいな、車にひかれねばいいな」って心配です。買い物してバス停から2キロ歩いてるお年寄りに会ったこともあります。そうすると絶対乗ってって言いたくなります。

つまり、これからはしっかりと家の前に着

けられる交通システムが必要だと思います。その交通システムを作るために、地域も役所、官もそれこそ一緒になって考えていかなければいけない。それと、その今の機関交通、幹線のことも考え直さなければいけない。距離を短くしてもっと多くするとか。そして、地域の交通を多くするとか、さまざまな取り組みが必要です。

その体系というのは、ある所は集団かもしれない地域かもしれない、ある所はタクシー会社、ある所はカーシェアリングとかさまざまな方法あります。

しかし、遠野にはタクシー会社3社ありますが、このシステムを十分に活用しない手はない、そういうふうには私は思っています。なぜならば、タクシー会社も、例えば人口減少に伴って客が減ります。しかし、ないと困ります。ですから、公共交通の手段の一つとして、しっかり存続できるようなプランと一緒に進めていかなければいけないと思っています。

その内容については、これから地域に入ってお話しして行く予定ですが、それを実証していく方法としては、特区、自動運転等も絡めてもいいと思います。これらのいろんな方法を使って実証実験含めてですね、予算確保から進めていかなければいけないというふうに考えています。いずれにしても、地域に寄り添う、伴走する。民間が動けば行政はそこに伴走していく、常に話ができる位置にいる、これが大切だと私は考えています。

○議長（浅沼幸雄君） 16番新田勝見君。

〔16番新田勝見君登壇〕

○16番（新田勝見君） 今の生活交通については、もう余談を許さないといえますか、いろんな形でこれは井戸端会議でも出るんだろうと思いますけども、ざいの奥のほうにとりましては非常に足の確保は生活する上では非常に重要です。自転車で行ける距離じゃないんですよ。

ぜひですね、そういったことを行政でもいろいろ話し合い担当課と話しをしながら、ぜひ対応といえますか策を作ってください。そして、小さな拠点にですね、この辺ぐらいだっ

たらできるんじゃないかというものを示していただいて、やるという方向にやっぱり持っていただきたい、そういうふうに思っております。

次にですね、行政区合併のメリットは何か。今盛んにですね、二つの行政区を一つにとか、三つを一つにとかいう形で進めております。

そして、この前の広報遠野にも具体的に初めてあのような形で載りました。そうしたならば、附馬牛町のある区長ですけども、「私は、これに対してはずっと反対してきた、なのになんでこのように決まってるんだ」というような怒りでございました。「いや、私もこれについては当局と何年もかかって話ししてるんだ、順序が逆だべと」「この行政区も二つが一つなったり、三つが一つになったり、あるいは変更ない所の住宅が100何件以上あるのか、ないべ、なんでここは変更になんないんだ」と。私たち議会として、遠野町15区のことについて、いろいろ懇談会したときにですね、あそこは一つの行政区で500何戸あるというようなことで、そういった所も解消しなきゃならないというのは議会でも話ししてですね、そういった話しも要望もしたような気もしていましたけれども、今そのままですよ。なおかつ、田舎の方はみんなその行政区合併だよと。人口がないから合併すると。合併すれば活力が生まれるっていう考え方は私はちょっと。

市長どのように考えているかわかりませんが、この行政区というのは、昭和29年に遠野市が合併して以来の行政区ですよ。これを一気にそうやろうとしてるわけですから、議会あるたび私は言ってますけども、そういったことについてね「じゃあメリットなんなんだよ」と「これくっつけてどうすんだ」と。そして、もう一つですね、今いろいろ計算して自治会にこのくらいの支援しますよというお金があります。

これは区長が、二つが合併すれば60万程度になるわけですけども、そして自治会には40万いくらぐらいのこれは支援しますよと。これは

単なるですね、行政区の経費が削減されるだけで、置かれている立場にある区民にとっては、「私は無理にやられたんだよ」ということ本当にね、たびたび聞きますけれども、そういったことについて、市長はどのようにお考えでしょうか。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） 非常に新米市長にとっては難しい答弁になります。なぜできていったか、どういう議論がなされたか、正直申し上げてあまりよく私は理解していませんでした。

しかし、その上で今の状況に何をプラスすれば、さらにやりやすくなるか、メリットは何かと考えました。合併しなくても使えるメリットではあると思うんですけれども、私は市民活動サポートセンターというものを推奨しております。これは、4年前からずっと推奨しております。世の中には、市民活動、地域活動をバックアップするシステムはたくさんあります。これらを活用するチャンスと考えれば、各地区センターがそれを独自に考えて、さまざまなチャンネルで資金を確保することも実行することもできるというふうに理解できます。

そのために必要なサポートをする部署、これは行政ではなく民間レベルで作って、そのサポートをするってことも可能だと思います。これらを進める方法は、もう遠野の中にもそういうふうにして活動してる方々もいますので、わかりやすく説明できるようになっていくと思います。

ただ、必要なのはこの行政区再編、そして小さな拠点づくりを行った。なかには、「よしやるぞ」というふうになってる方々もいるんですね。この方々は、じゃあ不満がなかったかどうかだったかっていったら、これ決してそうじゃなかった。でも前向きになってるわけです。その中でしっかり前向きになりながら、自分たちが活動しやすい環境を作るっていう考え方にもう切り替えていかないといけないと私は考えています。そのだめだった部分、改善しなければ

いけない部分をこれからもっともっと整理をして、分かりやすくして行って、それを一緒に改善していく、その方法で行きたいと私は考えています。

メリット、これからの活動でその小さな拠点がメリットを作れるかどうか、メリットが用意されてるのではなくて、メリットを自ら生み出していくという考えも必要だと考えています。

○議長（浅沼幸雄君） 16番新田勝見君。

〔16番新田勝見君登壇〕

○16番（新田勝見君） 市長の言うとおりですけれども、強いて言えば人材がですね、その地域にどれだけいてどれだけ盛り上げていくかということだと思えます。現実を見れば、75、80、85、90の方々が住んでいる地域とするならば、そこまで求めるのは酷かなというふうに私は思っております。もうそこまで、先ほど言いましたようにある人は「限界集落だ消滅集落だ」っていいですけども、そこまで来ているなかで、それを求めるっていうのはちょっと酷かなというふうに思った次第でございます。

では、次の質問に移ります。次に、姉妹都市、友好都市の今後について質問いたします。

姉妹都市については、イタリアのサレルノ市は、映画遠野物語がサレルノ映画祭のグランプリを受賞、それを契機に当時の小原市長が結んだとされています。35年以上にわたって交流し多くの成果を上げています。

また、アメリカのチャタヌーガ市との交流は、中学生の派遣などが中心となり今まで258名の派遣が行われ、111名の受け入れが行われています。市民ツアーも参加しております。子どもたちにとっては、かけがえのない交流と私は捉えております。

また、友好都市については東京都三鷹市、武蔵野市、愛知県大府市、兵庫県福崎町、熊本県菊池市、宮崎県西米良村と交流しています。

人と人との交流、物産交流、さまざまありますが、人々の心を楽しく和ませしてくれる、そして心豊かにしてくれる、そういう交流が非常に望まれております。そして、その人にとって

は大きな財産として生き続けています。

今までの市長は、そのタイミングで交流を締結しています。私の知っているのは、小原市長はサレルノ市、武蔵野市、三鷹市であり、菊池市長は菊池市、本田市市長は大府市、西米良村、チャタヌーガとなっております。中高生、市民団あるいは芸能、スポーツの人的交流、そして特にもう物産、産業まつりなどでの販売をしてくれたりしています。

多田新市長は、今までの経過も踏まえ、これからはどのような姉妹都市あるいは友好都市の交流が行われるのかについて、考えているのがあれば伺いたします。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） かなり多くの市町村と友好都市、交友関係を作ってきた遠野です。

私はまずこの付き合いってものは大事にしていくべきだと考えています。おそらく友達と言える人たちもたくさんできているんじゃないでしょうか。大事にしていきたいと思います。

その上で、やっぱり友好関係、交流というのは片一方の考えだけではできるものじゃないので、コロナ禍もありました、しっかりともう一度その相手の市町村とも意見交換をする、状況の確認をするということも必要だと思います。

私自身で言えば、災害もありましたね、菊池市でもありました。大府では災害の研修で私も呼ばれました。さまざまな付き合いが私もあります。

ただ、新たな付き合いというのは、どんどんこれから増えていくと思います。もういろんなところにチャンネルが増えていくと思います。

ですから、友好都市とかそういうふうな都市の締結をするということは考えていません。

○議長（浅沼幸雄君） 16番新田勝見君。

〔16番新田勝見君登壇〕

○16番（新田勝見君） このコロナということについて、非常にこの交流がですね滞っているんじゃないかなというふうに思います。

新しい市長におかれましても、海外のチャ

タヌーガ、あるいはイタリア・サレルノ、あるいは国内もそうですけども、いろんな情報も来ているやに聞いておりますから、それをきちんと精査しながら今までの努力、積み重ねてきたものをぜひ継続してってもらいたいし、また、多田市長が思いついた時点で、新しい国、あるいは都市との交流があれば、私は進めていってもいいのではないかなというふうに思っているところでございます。

サレルノ市の遠野物語の映画、私も出ていますし、またですね、菊池市あるいは西米良、武蔵野、郷土芸能ですね、もう何年も私も行っています。震災の後に菊池市の返礼をしてくれと前の市長に言われましてですね、及川副市長とともにしし踊りの一行を連れてですね、あそここの菊池神社の中で奉納したこともありますし、また、西米良村の山まつり、ここにも行って私は交流してまいりました。

武蔵野は毎年のように行ってますけども、いずれこれをきちんとやって、交流することに心の豊かな遠野市民を作っていただきたいというふうに願うものでございます。

時間がだいぶなくなりました。それではですね、次に、郷土芸能の保存と伝承について伺いたします。

議会開会日の市長の所信表明演述がありましたが、そのなかでも郷土芸能は地域資源として伝承には支援していくというふうに述べられています。非常に私は力強い発言だったなというふうに思っております。郷土芸能に取り組んでいる人たちの心の支えになったのではないかなというふうに思っております。

今の現状はですけども、保存会の団体等は全部とは言いませんけれども、子どもたちの減少により踊り手の確保、あるいは後継者の育成が困難となってきています。さらにはコロナ禍もあって、祭りの中止、練習も全くしていない保存会等々あります。

県内地域によってはコロナ禍を逆手に取って、コロナ退散のために芸能会、発表を続けている地域もあります。

私の経験上、発表がなければ練習もしないし、保存会そのものが廃れていくことになりません。イベントを中止で難しいことではあります…

○議長（浅沼幸雄君） 制限時間が迫っておりますので、質問をまとめてください。

○16番（新田勝見君） 工夫してやれることはできるのではないかと考えております。

そういう発表の場をどんどん設けてはと思いますけれども、市長の考えをお伺いいたします。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） 賛成です。まず私は、遠野の郷土芸能大好きです。そして、震災の後に私はいろんな国で震災支援しました。フィリピン、レイテ島、インドネシア、また火山が噴火しています。インドネシアは火山で町が埋もれてしまうんですね。それで町ごと移転するとかってということもあります。ネパール大震災、これもレンガ、石が崩れて多くの方が死にました。

思い起こせば東日本大震災。郷土芸能で魂を鼓舞して自分たちの歴史、文化を確認して、生きる力を奮い立たせていくというシーンは、もう何度も目にしたはずですが。これは海外でも一緒でした。

私が海外で「やろう、民族芸能やろう」「いや、まだ喪中だ」でもやっていくと、どんどん変わってくんですね、前に行く。だから本当にこれは凄い。なおかつ遠野で凄いと思うのは、どこに行っても民族芸能って言います。国でこういう民族芸能。遠野は郷土芸能って言います。より地域に密着した芸能であって文化、これは宝です。この発表の場というのはコロナ禍であります。できる方法でやっていくべきことだし、例えばイベントも全てが中止ではなく、やれる方法を探してやっていくべきだと思います。

もちろん、個人も含めて開催者、主催者にもそのリスクがありますので、しっかりと予防

策は取っていかねばなりません。私はいくつかの場合。イベント等の場合、最大限の注意をもって今の状況、コロナが出ていない状況の中でタイミングを見ながらやっていくべきだと考えています。

○議長（浅沼幸雄君） 制限時間が1分を切っておりますので、質問をまとめてください。16番新田勝見君。

〔16番新田勝見君登壇〕

○16番（新田勝見君） それでは、最後の質問でございます。最後のテーマとして財源の確保ですが、全ての事業において予算が必要になります。財政力指数、令和2年度0.31、県内14市中13位となっております。市税収入も26億円余、収入構成比で11.5パーセント、市債が188億円余となっております。このままですと、市長がやりたくてもできない状況にあるのではないかと心配しております。

はたして市長の考える市民の要望に応えるためには、この財源の確保というものは市政…どのようにお考えになっているかお尋ねします。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） もちろん、交付金、補助金等の確保というのがあります。

ただ、これからの行政はそれだけではだめで、自分である財産を使いながら資金を生み出すということも考えていかねばなりませんし、行政区内のみならず市の中にしっかりとそういう財源を生み出す、つまり税金を生み出すような事業開発を進めていかねばならないと思います。それが経済も循環させることになってきます。視点を変えて経営する行政ということも必要です。

先ほど新田議員お話しされたように、14番中13位、そういう数字もあります。ここまですれば下はありませんから、もうあとはチャンスだけが残ってるわけです。いろんなピンチはあります。でもチャンスの方が多いです。

ですから、そのチャンスをしっかりと捉えながら前向きに進んでいきたいと思っております。議

員の皆様にも、さまざま御助言いただきますよう
よろしく願いいたします。

散 会

○議長（浅沼幸雄君） お諮りいたします。本
日の会議はここまでとし散会いたしたいと思
います。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（浅沼幸雄君） 御異議なしと認めます。
よって、本日はこれにて散会いたします。御苦
労さまでした。

午後 4 時 28 分 散会